

研究会会長所信表明

九州大学大学院農学研究院 昆虫学教室
紙谷聡志

2023年12月10日(日)に九州大学伊都キャンパスにおいて九州・沖縄昆虫研究会の総会が開催され、2024～2025年の本会の会長を務めることになりました。これまで通り、年3回の例会と年末の大会、会報「Pulex」の発行を中心に活動し、最新の昆虫学の研究を共有したり、学部学生などをはじめとする九州に在住する昆虫研究者の重要な発表の場となるようにしていく予定です。2024年夏には国際昆虫学会議 ICE が京都で開催されることから、会員の皆様ならびに九州・沖縄地区の昆虫愛好者や研究者の方々には、本会への積極的なご参加と活動へのご協力を賜りたいと思います。最後に、研究会の庶務担当として、三田敏治氏、屋宜禎央氏、舘卓司氏、松尾和典氏(順不同)から快諾をいただきましたので、ここに報告いたします。

2023年12月31日

2023年度活動報告

九州・沖縄昆虫研究会 2023年度 春の例会

九州・沖縄昆虫研究会 2023年度 春の例会は、第99回九州昆虫セミナーとの合同で、2023年4月22日(土)に佐賀大学農学部とオンラインのハイブリッドにて開催された。以下の2題の講演が行われ、参加者は45名であった。

1. ダイズサヤタマバエとトビイロウンカの基盤的研究
藤井智久(農研機構・植防研)
2. コバチ上科を中心とした寄生蜂類の多様性と農業での利用
松尾和典(九州大・比文)

九州・沖縄昆虫研究会 2023年度 夏の例会

九州・沖縄昆虫研究会 2023年度 夏の例会は、2022年9月2日(土)に九州大学農学部とオンラインのハイブリッドにて開催された。以下の2題で講演が行われ、参加者は36名であった。

1. 基質振動を活用したタバココナジラミの物理的防除
柳澤隆平(九州大・理・生物)

2. ノメイガ類における“Hybrid type”性フェロモンの普遍性と進化
松井悠樹（九州大院・農・昆虫）

九州・沖縄昆虫研究会 2023年度 秋の例会

九州・沖縄昆虫研究会 2023年度 秋の例会は、第100回九州昆虫セミナーとの合同で、2023年11月25日（土）に九州沖縄農業研究センターにて開催された。以下の2題の講演が行われ、参加者は13名であった。

1. 農業害虫を益虫に。
宇佐見享嗣（名古屋大・高等研究院/ITbM）
2. 社会を持つ昆虫シロアリにおけるオスの存在意義に関する研究
矢代敏久（農研機構・植防研）

九州・沖縄昆虫研究会 2023年度大会

九州・沖縄昆虫研究会 2023年度大会は、日本鱗翅学会九州支部と合同で、2023年12月10日（日）に九州大学農学部とオンラインのハイブリッドにて開催された。以下の1題の特別講演と7題の一般講演が行われ、参加者は67名であった。

特別講演

国立科学博物館における昆虫コレクションの収集・保管と利用

野村 周平（国立科学博物館）

国立科学博物館は国内最大の自然科学系博物館として、150年以上の歴史をもつ。展示場と本部は東京都心の台東区上野公園にある。一方バックヤードは茨城県つくば市内にあり、動物、植物、地学、理工、人類の5研究部からなる。昆虫の研究は動物研究部陸生無脊椎動物研究グループが担当し、昆虫担当の4名とクモ類担当の1名の常勤研究者が勤務している。公称約200万点からなる昆虫の所蔵コレクションは、つくば地区自然史標本棟の一室に保管されている。昆虫標本のコレクションは主に職員が収集した標本と、国内外の研究者から寄贈されたコレクションによって成り立っている。収蔵スペース確保のため、新たな収蔵庫が建築中であり、今年度中の竣工が見込まれている。空調などの維持経費は年間数億円かかっているが、最近の電気代の高騰により急激なひっ迫が起こった。これを補うために2023年8月7日～11月5日、クラウドファンディングを行い、一般からの寄付を募った。目標額の1億円は開始後9時間で達成し、最終的には9億円を超える寄付額を計上した。これにより国立科学博物館の業務に対して、国民的な支持が得られていることは明らかになったが、一方で政府の手当の不十分さを嘆く声も多く聞かれる。

一般講演（○は発表者、下線はオンライン発表者）

1. 隠蔽環境に置かれたナナフシ卵に対するアリ・捕食者の応答

○大片智裕（九州大・農）・三田敏治（九州大院・農）

ナナフシヤドリバチ *Nipponosega yamanei* は無翅のナナフシヤドリバチ類の一種である。本種は寄生の前に卵を物陰などに運搬する行動をとるが、その意義は不明である。演者らは、その効果を検証するために、ナナフシの卵を設置し卵を覆う障害物の有無と卵に集まる昆虫の構成との対応について調べた。トゲナナフシ *Neohirasea japonica* の卵4つをひと単位

として、九州大学伊都キャンパス（福岡県福岡市西区元岡）の生物多様性研究ゾーンに卵を12セット設置した。そのうちの半数のセットに寄生蜂が実際に利用するサイズの覆いをかぶせた。2セットはタイムラプスで撮影した。設置卵の持ち去り・捕食による利用率は覆いのある区が17%と、覆いのない区（62%）に比べて顕著に低い傾向がみられた。また、画像をもとに卵に集まる昆虫を確認した結果、覆いのある区では10回のアリ類による持ち去りが観察された。一方、覆いのない区ではおよそ3倍にあたる合計31回の持ち去りが観察された。アリ類による持ち去りに加えて、コオロギ類による捕食が観察された。これらの結果により、寄生蜂の寄主卵隠蔽行動にはほかの昆虫からの卵の保護の効果があると考えられた。

2. ハヤシケアリとともに得られた日本未記録属 *Acanosema* Kieffer, 1908

（ハチ目：ハエヤドリクロバチ科）の一種

○河合諒人（九州大・農）・三田敏治（九州大院・農）

ハエヤドリクロバチ科は汎世界的に分布する小型の寄生蜂である。ハエ目の飼い殺し寄生蜂として知られるが、寄主を含め、生活史が明らかになっているものはごく一部に限られる。一方で、海外ではアリやアリの巣とのかかわりがある種が古くから知られており、それらは他の好蟻性昆虫でもみられるような形態的、行動的な特殊化が見られる。これらの種は新大陸の低緯度地域で多様性が高い。旧北区のハエヤドリクロバチ類でアリとの関連が指摘されているものは多くないが、分布する2亜科それぞれで複数種が知られる。日本では *Lepidopria masneri* Notton, 1994 をはじめとして学名未決定種を含む4種が知られている。今回、演者らは青森県でハヤシケアリ *Lasius hayashi* Yamauchi & Hayashida, 1970 とその好蟻性昆虫の調査中に上述の4種とは異なるハエヤドリクロバチ科の不明種を得ることができた。中胸背板斜溝が後方で不明瞭になる、後頭と前胸背板前方の毛が密に生えるといった形態的特徴から、該当の個体は日本未記録属である *Acanosema* 属の *A. rufum* Kieffer, 1908 であると考えられた。本種は約90年前にイングランドで *Lasius brunneus* (Latreille, 1798) と共に得られており、アリとの生活史の関連が疑われていた。本講演では、*A. rufum* の発見時の状況や他種との識別点について紹介する。

3. *Carebara pygmaea* 種群（アリ科：フタフシアリ亜科）の分類学的再検討

○松浦公平（九州大・農）・三田敏治（九州大院・農）・細石真吾（九州大・熱研セ）

カレバラアリ属 *Carebara* はアリ科フタフシアリ亜科の一属で、主に熱帯・亜熱帯に分布する。多くは土中、リター、石下、朽ち木などに営巣する地下性で、ワーカーには二型や多型が見られる。世界から225種が記載されており、主要な生息地の一つである東南アジア地域からは約40種が知られる。本属は中南米やアフリカで近年解明度が向上しているが、東南アジア産種の解明度は低く、多くの未記載種の存在が示唆されている。また、主に中南米の分類群に基づいて *Oligomyrmex* などの計18の属が本属のシノニムとみなされているが、東南アジア産種の分類学的研究が不足しているため、この措置が当地の分類群にも幅広く当てはまるかどうかは検証を必要としている。また、東南アジアの一部の種では形態的特徴に基づいて種群が設定されている。そのうち、*C. pygmaea* 種群は4種からなるコンパクトな一群である。演者らは東南アジア産種の解明度向上に向けた一歩として、本種群の分類学的研究を行い、顕著な形態的特徴を示す1未記載種を確認した。本発表では、種群内の既知

種4種と未記載種の形態的特徴について紹介する。

4. 小笠原諸島で発見された *Stathmopoda* 属 (チョウ目：ニセマイコガ科) の不明種について

○浜口純平 (九州大・農) ・屋宜禎央・広渡俊哉 (九州大院・農)

ニセマイコガ科はチョウ目キバガ上科に属しており、世界で 390 種以上が知られている (Terada, 2016) . 本科は後脚脛節に輪生棘を持ち、多くの種がその後脚を持ち上げる静止姿勢をとるという特徴をもつ. *Stathmopoda* 属は主に東洋区とオーストラリア区に多く生息し (Wang *et al.*, 2021) , 世界から 280 種以上、日本からは 28 種が知られている. 演者らは小笠原諸島での野外調査において翅の斑紋に複数パターンの変異が見られる本属の不明種を発見した. 野外で得られた幼虫の飼育によってその食性の一部が判明し、本種は斑紋ごとに食性も分化している可能性が示された. 一方で、斑紋間で交尾器形態に明確な差異は確認できなかった. そこで、斑紋及び列島間での遺伝的分化の程度、属内での系統的位置を推定するため、ミトコンドリア DNA の COI バーコード領域を用いた解析を行った. その結果、本種は斑紋ごとに遺伝的分化が生じており、また同じ斑紋であっても列島間で遺伝的に分化していた. また、属内での系統推定の結果から本種はキイロマイコガに近縁であることが示唆された.

5. 九州・南西諸島から採集されたスダジイを利用する 2 種の *Stenolechia* 属

(鱗翅目：キバガ科)

○酒井大輔・坂巻祥孝 (鹿児島大院・農) ・屋宜禎央 (九州大院・農)

Stenolechia 属はユーラシア大陸から 18 種が知られており、淡灰～灰色の地色に数個の黒斑が散在する前翅をもつ. 日本産 *Stenolechia* 属 6 種は 3 種群に分類されている (Kanazawa, 1984) が、近縁属への再分類を提案されている種が存在し、近縁属との関係性は現在まで不明瞭なままである. 本属の食草については、コナラ属 *Quercus* を利用している種が多いと考えられているが、日本産本属は食草不明種が多く、針葉樹を利用する種も存在するため、コナラ属との関係性を解明するためには、今後も食草の調査が必要である. 本研究では九州・沖縄のスダジイ *Castanopsis sieboldii* から採集された未記載種と考えられる 2 種の *Stenolechia* 属について分布の確認、潜葉痕および成虫の形態比較、種群の検討を行った. その結果、*S. sp. 1* は石垣島～中之島、*S. sp. 2* は沖縄～対馬に分布し、2 種の潜葉痕は中肋に沿った線状で互いに非常に似た形状であった. また、交尾器形態から *S. sp. 1* は *rectivalva* 種群に分類され、*S. sp. 2* は既存の種群にあてはまらず、新種群の設立が必要と考えられた.

6. 鱗翅目に対する微生物農薬がシロヘリクチブトカメムシに与える生理的影響

○小林太樹・坂巻祥孝 (鹿児島大院・農)

シロヘリクチブトカメムシは、田畑や水田といった身近な場所に生息する昆虫であり、鱗翅目やハムシ類の幼虫といった害虫を捕食する天敵としても知られている. しかし、本種は化学農薬に対する感受性が高く慣行農業では天敵としての利用は困難である. そのため、本種は有機栽培圃場等であれば天敵として機能することが考えられる. そこで、本研究では、有機栽培圃場等で使用される微生物農薬に着目し、微生物農薬とシロヘリクチブトカメム

シの併用が可能であるか調査した。本研究では微生物農薬として BT 剤(フローバック DF), ボーベリア・バッシアーナ製剤 (ボタニガード ES) の 2 種を人工飼料に混合させることでシロヘリクチブトカメムシが捕食によって受ける生理的影響(幼虫各齢期間, 成虫までの生存率, 次世代卵数等)を室内実験において評価した。その結果, ボタニガード ES がシロヘリクチブトカメムシに与える生理的影響は大きく, 成虫まで発育する個体数が著しく低下することが分かった。また, 農薬の濃度の違いによっても与える影響に差異が見受けられた。

7. チャ圃場で採集したアザミウマタマゴバチ類 (*Megaphragma* spp.) の比較

○中田誠人・坂巻祥孝 (鹿児島大院・農)

アザミウマタマゴバチ類 (*Megaphragma* spp.) は膜翅目, タマゴコバチ科 (Trichogrammatidae) に属する種群である。世界最小の昆虫として知られており, その体長は 0.2mm に満たない。また, アザミウマ類の卵に寄生する卵寄生蜂としても知られている。これまでに記載されているアザミウマタマゴバチ類は 32 種であり, 12 属のアザミウマが宿主となることが知られている。アザミウマタマゴバチ類の天敵防除資材としての利用が期待されているが, 国内での研究例はほとんど報告されておらず, その種数や生態はほとんど解明されていない。本研究では, 鹿児島県農業開発総合センター茶業部(知覧町)のチャ圃場内で採集されたアザミウマタマゴバチ類のバーコード領域の塩基配列を決定した。その結果, 互いに 3.7%~5.7%異なる 3 種類のハプロタイプのアザミウマタマゴバチ類が同圃場に生息していることが示唆された。しかし, バーコード領域での比較だけではそれぞれが別種かどうかを断定することができないため, 今後は核遺伝子 28s 領域の解析と形態での比較も進めていく必要がある。

九州・沖縄昆虫研究会 2023 年度会計報告 (2023 年 12 月 9 日締)

収入		
	前年度 (2022 年 12 月 9 日締) 繰越分	396,300 円
	合 計	396,300 円
支出		
	夏の例会 会場使用料	6,500 円
	雑費	495 円
	合 計	6,995 円
差引残高		389,305 円

2023 年 12 月 9 日

九州・沖縄昆虫研究会 会計幹事 紙谷聡志

- 原 著 -

目次

6 4 9 (Col.: Dytiscidae) 佐賀県初記録のチビマルケシゲンゴロウ	971
..... 原本 (尋木) 優平	
6 5 0 (Hem.: Coreidae) 沖縄島北部で確認されたマツヘリカメムシの記録	972
..... 後藤健志・後藤健太郎	
6 5 1 (Hem.: Tingidae) ヤマコウバシグンバイの佐賀県からの初記録と新奇主植物	974
..... 相馬 純	
6 5 2 (Hem.: Pentatomidae) 対馬におけるキマダラカメムシの記録	975
..... 長田庸平	
6 5 3 (Col.: Carabidae) 沖縄諸島栗国島におけるコハンミョウの採集記録	975
..... 小浜継雄	
6 5 4 (Col.: Chrysomelidae) 沖縄県名護市奥武島におけるサツマイモヒサゴトビハムシの記録	976
..... 小浜継雄	
6 5 5 (Bla.: Blaberidae) 沖縄諸島栗国島におけるリュウキュウゴキブリの記録	977
..... 小浜継雄	
6 5 6 (Lep.: Arctiidae) 沖縄県名護市奥武島のムラマツカノコの記録	978
..... 小浜継雄	
6 5 7 (Col.: Carabidae) オキナワハンミョウを沖縄県名護市奥武島で採集	978
..... 小浜継雄	
6 5 8 (Dip.: Psychodidae) 佐賀県初記録のニッポンサシチョウバエ	979
..... 古川晶啓・三條場千寿・日南 瑤・徳田 誠	
6 5 9 (Lep.: Peleopodidae) オオエグリキバガの九州初記録について	980
..... 荒島 弾	
6 6 0 (Lep.: Depressariidae) ヒラタマルハキバガ科 2 種の屋久島からの初記録について	980
..... 荒島 弾	
6 6 1 (Lep.: Crambidae, Noctuidae) 福岡県・熊本県における河川河口域の注目すべき蛾類	981
..... 福菌貴史・神吉隆行・佐々木公隆	
6 6 2 (Lep.: Geometridae) クシヒゲハイイロヒメシャクの寄主植物および佐賀県における採集記録	983
..... 矢野文士・奥園元晴・大塚陽香・日南 瑤・徳田 誠	
6 6 3 (Lep.: Noctuidae) 長崎県におけるタイリクウスイロヨトウの記録	985
..... 神吉隆行	
6 6 4 (Hym.: Formicidae) ジュズフシアリを熊本県で採集	986
..... 久末 遊・野崎 翼	

- 6 6 5 (Hym.: Ichneumonidae) 標本に基づくニッポンキイロヒラタヒメバチの九州からの確実な記録
.....久末 遊 987
- 6 6 6 (Lep.: Pyralidae) 熊本県においてロウバイから採集されたイナゴマメマダラメイガ.....
.....後藤聖士郎 989
- 6 6 7 (Col.: Nitidulidae, Staphylinidae; Hym.: Formicidae) アカダマキヌガサタケに誘引される
昆虫.....陳 黄奇・橋爪拓斗・野崎 翼・紙谷聡志・伊藤直哉・細石真吾 990
- 6 6 8 (Hym.: Ichneumonoidea) クシヒゲハイロヒメシヤクを寄主とする 2 種の寄生蜂.....
.....奥園元晴・矢野文士・小西和彦・藤江隼平・大塚陽香・日南 瑤・徳田 誠 991
- 6 6 9 (Lep.: Nymphalidae) キマダラモドキの八女市上陽町の記録.....
.....佐々木公隆・松永紀代子 992
- 6 7 0 (Lep.: Geometridae) 九州各地で 2020 年以降に採集・撮影したフユシヤクの仲間.....
.....佐々木公隆・福菌貴史 993
- 6 7 1 (Lep.: Crambidae, Noctuidae, Adelidae) 福岡市周辺の貴重な蛾類 3 種.....
.....佐々木公隆 997
- 6 7 2 (Lep.: Geometridae) ナガオエダシヤクを九州本土から記録.....
.....佐々木公隆 999
- 6 7 3 (Lep.: Sesiidae) 筑後市でアシナガモモプトスカシバを採集.....
.....佐々木公隆・広田進一 999
- 6 7 4 (Lep.: Crambidae) 九州初記録のクロホシノメイガを福岡県で採集.....
.....松井悠樹・西谷光平 1000
- 6 7 5 (Lep.: Adelidae) コンオビヒゲナガの屋久島における初記録.....
.....松井悠樹 1001
- 6 7 6 (Lep.: Ditrysia) 福岡県レッドデータブック 2014 で絶滅危惧・準絶滅危惧種に指定された蛾類の
分布追加記録.....朴 鎮亨・後藤聖士郎 1002
- 6 7 7 (Lep.: Incurvariidae) 奄美大島でリュウキュウホソバネマガリガ成虫を採集.....
.....朴 鎮亨・松井悠樹 1004
- 6 7 8 (Lep.: Tortricidae) 長崎県および熊本県におけるホソハマキガ族 3 種の記録.....
.....鈴木信也 1004
- 6 7 9 (Hemi.: Cicadellidae) 福岡県から害虫種のヒメヨコバイ亜科 2 種を初確認.....
.....上原友太郎・大原直通 1006
- 6 8 0 (Hym.: Aculeata) 糸島半島で得られた有剣ハチ類の記録.....
.....三田敏治 1007

6 4 9 (Col.: Dytiscidae) 佐賀県初記録のチビマルケシゲンゴロウ

原本(尋木) 優平 (いであ株式会社 九州支店 環境技術・生態部)

チビマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus pumilus* Sharp, 1882 は、日本、フィリピン、スマトラ、ジャワ、ベトナム、インドに分布しており、国内では、九州(福岡県、長崎県、熊本県、鹿児島県)、南西諸島(奄美大島以南)に分布する(深川, 2015; 加藤・渡部, 2022; 中島ら, 2020; 松井, 1992; 松井ら, 1988; 佐藤, 1984)。

本種は、環境省版レッドリスト 2020 において準絶滅危惧種(NT)に選定されている希少種である(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2020)。

筆者は本種を佐賀県にて採集したため、本種の分布情報の追加のために、ここに報告する。

[採集標本データ]

1 ex., 佐賀県佐賀市金立町金立, 22.IX. 2022, 筆者採集・保管(図1)。

採集場所は、樹林に覆われていないため池の岸際に位置する植生が豊富な浅い湿地であった(図2)。

末筆ながら、本稿をまとめるにあたりご協力いただいた渡邊黎也氏(いであ株式会社)、ならびに、古川雅通氏にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

[引用文献]

深川元太郎(2015)長崎県本土の水生甲虫類(コツブゲンゴロウ科・ゲンゴロウ科・ミズスマシ科・ホソガムシ科・ダルマガムシ科・ガムシ科)の記録. 長崎県生物学会誌, (76): 24-44.

加藤雅也・渡部晃平(2022)沖縄島におけるチビマルケシゲンゴロウ. さやばねニューシリーズ, (47): 67.

環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(2020)環境省レッドリスト 2020 の公表について. <https://www.env.go.jp/press/107905.html>

中島 淳・林成多・石田和男・北野 忠・吉富博之(2020)ネイチャーガイド日本の水生昆虫. 351 pp. 文一総合出版, 東京.

松井英司(1992)天草諸島の水生甲虫目録. 熊本昆虫同好会報, 38(1): 1-20.

松井英司・高井 泰・田辺 力(1988)鹿児島県の水生甲虫相. SATSUMA, 37(100): 61-115.

佐藤正孝(1984)日本産水棲甲虫類の分類学的覚え書, II. 甲虫ニュース, (66): 1-3.



図1. 採集したチビマルケシゲンゴロウ.



図2. チビマルケシゲンゴロウの採集環境.

650 (Hem.: Coreidae) 沖縄島北部で確認されたマツヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis* Heidemann の記録

後藤健志 (沖縄県立農業大学校) ・後藤健太郎 (沖縄県西原町)

マツヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis* Heidemann (カメムシ目, ヘリカメムシ科) は、本来、北米地域に分布するカメムシである (Mitchell, 2000) . 日本では、2008年に東京都で初めて記録されて以降、佐賀県や香川県などでも確認されている (石川・菊原, 2009 ; 中村 2019 ; 玉川ら, 2022) . 沖縄県からは、2019年に沖縄市で初めて生息が確認されているが (刀禰, 2020) , その後の県内からの生息情報は得られていなかった.

今回、名護市で採集した個体は、沖縄県立農業大学校の校舎内で発見した成体の死骸である (図1) . また、国頭村で確認した個体は、国頭村森林公園の野外トイレ内の壁面に静止していた成体である (図2) .

発見場所の近くには照明機器が設置されていたことから、いずれの個体も電灯に誘引され飛来した可能性が考えられる. 県外でも建物内で採集された事例が複数報告されており (根来・植田, 2014 ; 伊藤, 2015 ; 宮本ら, 2012 ; 玉川ら, 2022) , 越冬のために家屋に飛来した可能性が指摘されている (宮ノ下・曲山, 2017) . 本種は飛翔能力が高いことに加え (Rabitsch, 2010 ; 山田, 2015) , 人為的要因による移動分散の可能性も指摘されていることから (鶴ら, 2020) , 県内の他の地域においても、既に本種が侵入している可能性がある.

本種は、マツ科植物の針葉や種子を加害することが知られており (Mitchell, 2000) , 吸汁されたクロマツ *Pinus thunbergii* の種子は、生産性が低下することが報告されている (松永ら, 2022) . 本県にはリュウキュウマツ *Pinus lyuchuensis* が分布し (初島・天野, 1994) , その種子は、ケナガネズミ *Diplothrix legata* などの希少な動物の餌資源にもなっている (久高・久高, 2017) . 今回、本種が発見された国頭村は、ケナガネズミが生息する世界自然遺産地域を有することから、今後、本種の北部森林地域での分散状況やリュウキュウマツに与える影響等についても注視する必要がある.

本報告に際し、ご助言をいただいた佐々木健志氏 (琉球大学博物館) , ご協力いただいた



図1. 名護市で採集したマツヘリカメムシの標本.



図2. 国頭村で確認したマツヘリカメムシ.

長田勝氏（琉球大学博物館）および玉那覇陽子氏（沖縄県立農業大学校後援会）の各氏に深く感謝申し上げます。

[記録]

1♂, 沖縄県名護市大北 沖縄県立農業大学校構内, 2022年5月25日, 後藤健志 (Goto Kenshi) 採集, 琉球大学博物館 (風樹館) 所蔵; 1 ex., 沖縄県国頭村字辺戸名 国頭村森林公園, 2022年12月30日, 後藤健太郎 (Goto Kentaro), 後藤健志 (Goto Kenshi) 記録.

国頭村森林公園は動植物の持ち出しが禁止されているため, 同定後に写真により記録した.

[引用文献]

初島住彦・天野鉄夫 (1994) 琉球植物目録. 282 pp. 沖縄生物学会, 那覇.

石川 忠・菊原勇作 (2009) 北米産ヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis* Heidemann の日本からの初記録. 昆虫 (ニューシリーズ), **12**(3): 115–116.

伊藤誠人 (2015) 兵庫県神戸市で採集されたマツヘリカメムシ. きべりはむし, **38**(1): 26.

久高奈津子・久高将和 (2017) 沖縄島やんばる地域におけるケナガネズミの食性と生息環境. ほ乳類科学, **57**(2): 195–202.

松永孝治・武津英太郎・岩泉正和・久保田正裕・原亮太郎・北嶋諒太郎・細川貴弘・渡辺敦史・久米 篤 (2022) マツヘリカメムシがクロマツの種子生産性に及ぼす影響. 日本森林学会大会発表データベース, **133**: 159.

Mitchell PL (2000) Leaf-Footed Bugs (Coreidae). In: Schaefer CW, Panizzi AR (eds) *Heteroptera of Economic Importance*: 364–366. CRC press, Florida.

宮ノ下明大・曲山幸生 (2017) 茨城県つくば市において冬季に建物で発見されたマツヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis*. ペストロジー, **29**(1): 23–24.

宮本雄助・伴 光哲・高野健太郎 (2012) 山梨県から発見された外来種マツヘリカメムシ. *Rostria*, (54): 54–56.

中村頌湧 (2019) 佐賀県で初めて確認されたマツヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis* Heidemann. *Pulex*, (98): 809–810.

根来淳代・植田義輔 (2014) マツヘリカメムシの大阪府牧方市からの記録. きべりはむし, **37**(1): 41.

Rabitsch W (2010) True Bugs (Hemiptera, Heteroptera). *BioRisk*, **4**(1): 407–433.

玉川晋二郎・田村茉織・安森盟文 (2022) 香川県におけるマツヘリカメムシの記録. 月刊むし, (466): 32–33.

刀禰浩一・大城哲也 (2020) 沖縄島で外来種マツヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis* Heidemann を確認 (Hemiptera: Coreidae). 琉球の昆虫, (44): 79–80.

鶴 智之・大生唯統・田村昭夫 (2020) 外来種マツヘリカメムシ *Leptoglossus occidentalis* の鳥取県からの初記録と分布の拡大状況に関する考察. 鳥取県立博物館研究報告, (57): 37–43.

山田量崇 (2015) 外来陸生カメムシ. 昆虫と自然, **50**(6): 12–15.

6 5 1 (Hem.: Tingidae) ヤマコウバシグンバイの佐賀県からの初記録と新寄主植物

相馬 純 (弘前大・白神センター)

日本, 中国, 韓国に分布するヤマコウバシグンバイ *Stephanitis (Stephanitis) ambigua* Horváth, 1912 (カメムシ目: グンバイムシ科) は, カナクギノキ *Lindera erythrocarpa* Makino, ヤマコウバシ *L. glauca* (Siebold et Zucc.) Blume, ダンコウバイ *L. obtusiloba* Blume, シロモジ *L. triloba* (Siebold et Zucc.) Blume (クスノキ科) に寄生し, 国内では本州, 四国, 九州から記録されている (Souma, 2022). 九州における本種の記録は少なく, 福岡県若杉山 (1951年9月23日採集) (Takeya, 1953, 1963) と大分県祖母山 (1930年7月20日採集) (Takeya, 1963; Souma, 2022) の2例が知られるのみである.

著者 (J. Souma) は, 2023年9月19日に佐賀県でケクロモジ *L. sericea* (Siebold et Zucc.) Blume に寄生する本種を採集したので, 同県初記録ならびに九州における72年ぶりの採集例としてここに報告する. 加えて, ケクロモジをヤマコウバシグンバイの新寄主植物として記録する. 検視標本はすべて弘前大学白神自然環境研究センターに保管されている.

[検視標本]

8♂12♀5 nymphs (図1-3), 佐賀県佐賀市富士町関屋 (Saga-ken, Saga-shi, Fuji-cho, Sekiya), 19. IX. 2023, 著者採集.

上記の25個体はすべてケクロモジ (図4) の葉裏から得られた. 葉表にはグンバイムシ科に特有の吸汁痕 (cf. Souma, 2022) が確認され, 葉裏には多数の黒い糞が付着していた. よって, この植物はヤマコウバシグンバイの寄主植物と判断された.

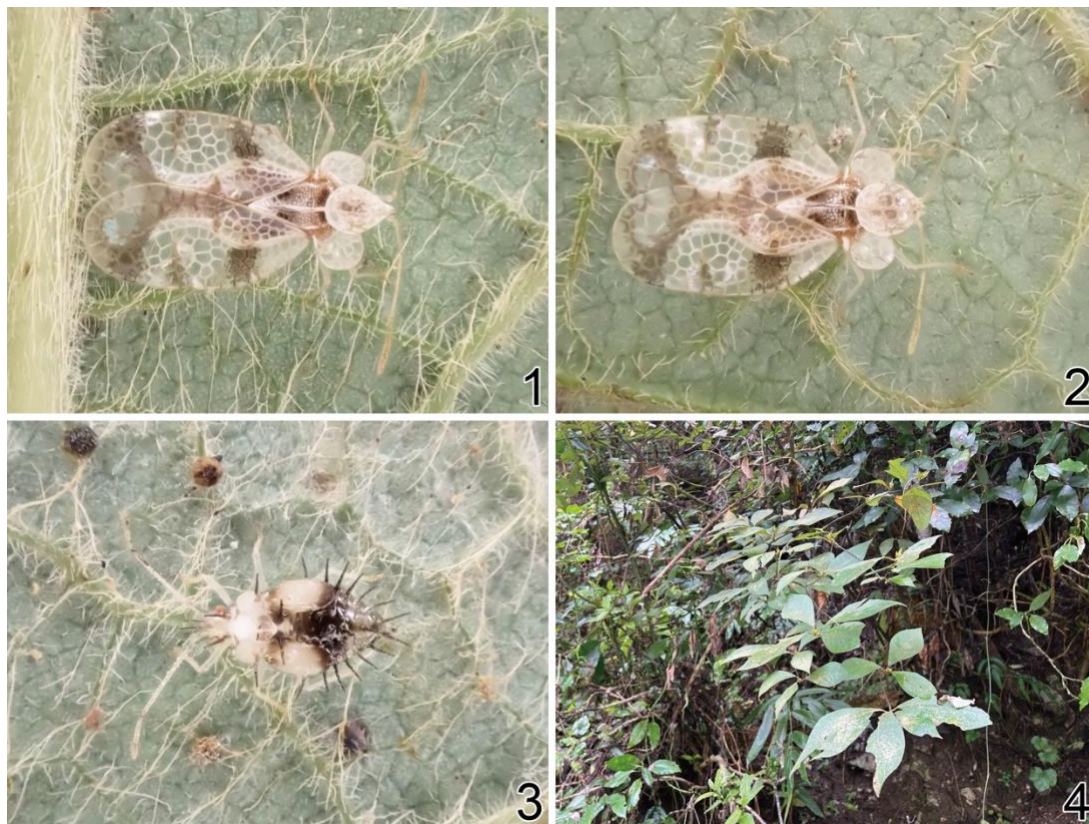


図1-4. 佐賀県産ヤマコウバシグンバイとその寄主植物. 1, ♂; 2, ♀; 3, 終齢幼虫; 4, ケクロモジ.

[引用文献]

- Souma J (2022) Integrative taxonomy of the Lauraceae-feeding species of the genus *Stephanitis* (Hemiptera, Heteroptera, Tingidae) from Japan. *Deutsche Entomologische Zeitschrift*, **69**(2): 219–281.
- Takeya C (1953) Notes on the Tingidae of Shikoku, Japan (Hemiptera). *Transactions of the Shikoku Entomological Society*, **3**(7): 167–176, pl. 6.
- Takeya C (1963) Taxonomic revision of the Tingidae of Japan, Korea, the Ryukyus and Formosa Part 2 (Hemiptera). *Mushi*, **37**(4): 27–52.

6 5 2 (Hem.: Pentatomidae) 対馬におけるキマダラカメムシの記録

長田庸平 (大阪市立自然史博物館)

カメムシ目カメムシ科の外来種キマダラカメムシ *Erthesina fullo* (Thunberg, 1783)は、国内各地で分布を拡大させている(石川, 2016)。筆者は本種をこれまで正式な記録がない対馬で採集したので報告する。対馬南部の厳原町今屋敷の市街地に植栽されているサルスベリやアカガシの樹幹に複数個体が見られたので採集した。



なお、ネット上でも対馬における本種の情報が見受けられることから、かなり以前に侵入したと思われる。

図1. サルスベリの樹幹に静止する成虫(2023年9月7日)。

本種の分布情報に関する助言をくださった弘前大学の相馬純博士にお礼申し上げます。

[データ]

3♂, 長崎県対馬市厳原町今屋敷(サルスベリ), 7.IX.2023, 長田庸平採集・大阪市立自然史博物館保管; 1♂4幼虫, 長崎県対馬市厳原町今屋敷(アカガシ), 8.IX.2023, 長田庸平採集・大阪市立自然史博物館保管。

[引用文献]

- 石川 忠 (2016) Pentatomidae カメムシ科. 日本昆虫目録編集委員会編, 日本昆虫目録 第4巻 準新翅類: 494–505. 権歌書房, 福岡.

6 5 3 (Col.: Carabidae) 沖縄諸島粟国島におけるコハンミョウの採集記録

小浜継雄 (沖縄県宜野湾市)

コハンミョウ *Myriochila speculifera speculifera* (Chevrolat, 1845) (オサムシ科, ハンミョウ亜科) は、沖縄県内において、沖縄島、瀬長島、久米島、宮古島、来間島、伊良部島、石垣島、西表島および与那国島から記録されている(楠井, 2017; 小浜・砂川, 2018; 松村, 2022; 鈴木, 2023)。筆者は未記録と思われる粟国島で本種を採集しているので報告する。

[採集標本データ]

1♂ (図 1), 粟国島大正池近く (沖縄県粟国村), 4. VII. 2023, 筆者採集・同定, 琉球大学博物館 (風樹館) 保管.

丈の低い草が疎らに生えている場所で採集した. 見られたのは採集した個体のみであった.



図 1. 粟国島産コハンミョウ♂.

[引用文献]

小浜継雄・砂川博秋 (2018) 宮古島と来間島のコハンミョウの採集記録. さやばねニューシリーズ, (30): 9.

楠井善久 (2017) 瀬長島 (沖縄県豊見城市) の甲虫目録 (1987 年から 2007 年まで). 琉球の昆虫, (41): 25–32.

松村雅史 (2022) ハンミョウ科. 松村雅史 (編著) 沖縄甲虫図鑑: 106–107, pl. 1. 沖縄時事出版, 那覇.

鈴木 茂 (2023) 日本列島の甲虫全種目録 (2023) . <https://japanesebeetles.jimdofree.com/> (2023 年 11 月 22 日閲覧)

6 5 4 (Col.: Chrysomelidae) 沖縄県名護市奥武島におけるサツマイモヒサゴトビハムシの記録

小浜継雄 (沖縄県宜野湾市)

サツマイモヒサゴトビハムシ *Chaetocnema confinis* Crotch, 1873 は, 北米原産のサツマイモの害虫で, 国内では小笠原諸島, 四国, 九州そして南西諸島の多くの島に分布する (林川ら, 2013 ; 小浜, 2022) . 筆者は, 沖縄県名護市奥武島において, 同島から記録が無いと思われる本種を採集しているので分布資料として報告する.

[採集標本データ]

1 ex., 沖縄県名護市奥武島, 25. XI. 2023, 筆者採集・同定, 琉球大学博物館 (風樹館) 保管. ノアサガオから得られた. 葉に成虫による食痕が見られた.

[引用文献]

林川修二・嶽崎 研・福田 健・水島真一・山下 進 (2013) サツマイモトビハムシ (*Chaetocnema confinis* Crotch) の生態と防除 1. サツマイモトビハムシ幼虫によるサツマイモ塊根の被害. 九州病害虫研究会報, **59**: 72–76.

小浜継雄 (2022) ハムシ科. 松村雅史 (編著), 沖縄甲虫図鑑: 239–246, pls. 90–93. 沖縄時事出版, 那覇.

6 5 5 (Bla.: Blaberidae) 沖縄諸島粟国島におけるリュウキュウゴキブリの記録

小浜継雄 (沖縄県宜野湾市)

リュウキュウゴキブリ *Pycnoscelus indicus* (Fabricius, 1775) (ブラベルスゴキブリ科) は、国内においてトカラ列島中之島、奄美大島、加計呂麻島、徳之島、沖縄島、宮古島、池間島、来間島、伊良部島、石垣島、西表島、鳩間島、与那国島、南大東島および小笠原諸島硫黄島から記録されている (Komatsu et al., 2015; 旭ら, 2016; 小浜・立田, 2020; 林ら, 2022; 小松・伊藤, 2023)。筆者は、これまで記録がないと思われる沖縄諸島粟国島において本種を採集しているため、分布資料として報告する。

[採集標本データ]

1♂ (図 1), 沖縄県粟国村浜, ウーグ浜. 3. VII. 2023. 筆者採集・同定, 琉球大学博物館 (風樹館) 保管.

本個体は、島の浜地区にあるウーグ浜のキャンプ場で採集した。

従来、オガサワラゴキブリ *Pycnosceles surinamensis* (Linnaeus, 1758)とされていた種には、単為生殖型と両性生殖型があり、Roth (1967) は、前者を *Pycnosceles surinamensis*、後者を *P. indicus* として区別した。Komatsu et al. (2015) は、小笠原諸島および琉球列島の各地から得られた個体群について繁殖実験を行い、雌だけを産む個体群と雌雄を産む個体群があることを明らかにした。単為生殖個体群は、オガサワラゴキブリ *P. surinamensis*、両性生殖個体群は、リュウキュウゴキブリ *P. indicus* とされる。小笠原諸島の母島や父島などにはオガサワラゴキブリが、奄美大島や宮古島、石垣島にはリュウキュウゴキブリが分布する。そして、小笠原諸島の硫黄島、琉球列島の徳之島と沖縄島には両種が分布する (Komatsu et al., 2015)。以上のことから、今回、粟国島から得られた雄個体をリュウキュウゴキブリと同定した。



図 1. 粟国島産リュウキュウゴキブリ♂。

[引用文献]

- 旭 和也・遠藤拓也・小松謙之 (2016) ゴキブリ目. 町田龍一郎 (監修), 日本直翅類学会 (編) 日本産直翅類標準図鑑: 206–227. 学研プラス, 東京.
- 林 幸希・柳沢静磨・大島千幸・寺井純汰・樽宗一郎・佐伯智哉・青柳 克 (2022) 宮古諸島におけるゴキブリ目の分布記録. *Fauna Ryukyuna*, **65**: 61–73.
- 小浜継雄・立田晴記 (2020) トカラ列島の口之島と中之島のバッタ, ナナフシ, ゴキブリ, ハサミムシの記録. 鹿児島県立博物館研究報告, (39): 1–6.
- 小松謙之・伊藤ふくお (2023) 日本産ゴキブリ全種図鑑. i-x + 189 pp. 北海道大学出版会, 札幌.
- Komatsu N, Kawakami Y, Banzai A, Ooi HK, Uchida A (2015) Species clarification of Ogasawara cockroaches which inhabit Japan. *Tropical Biomedicine*, **32**: 98–108.
- Roth LM (1967) Sexual isolation in parthenogenetic *Pycnoscelus surinamensis* and application of the name *Pycnoscelus indicus* to its bisexual relative (Dictyoptera: Blattaria: Blaberidae: Pycnoscelinae. *Annals of the Entomological Society of America*, **60**: 774–779.

6 5 6 (Lep.: Arctiidae) 沖縄県名護市奥武島のムラマツカノコの記録

小浜継雄 (沖縄県宜野湾市)

ムラマツカノコ *Syntomoides imaon* (Cramer, 1779) (ヒトリガ科, カノコガ亜科) は, 台湾, 中国南部からインド, 東南アジアに広く分布する (岸田, 2011) . 国内では 2004 年に与那国島で発見されて以降, 琉球列島において急激に分布域を拡大しており, 2022 年には奄美諸島に達している (小浜, 2022 ; 宮山, 2023) . 筆者は沖縄県名護市奥武島において, 同島初記録と思われる本種を確認しているため, 分布資料として報告する.

[撮影データ]

1 ex., 沖縄県名護市奥武島, 25. XI. 2023, 筆者撮影 (図 1) .

撮影個体は, 午前 11 時 30 分ごろ, 林縁のモミジヒルガオの葉, 地上約 1.2m の高さにとまっていた.



[引用文献]

岸田泰則 (2011) ヒトリガ科. 岸田泰則 (編) . 日本産蛾類標準図鑑 II : 148–167. 学研教育出版, 東京.

小浜継雄 (2022) ムラマツカノコを沖縄諸島屋我地島で採集. *Pulex*, (101): 933–934.

宮山 修 (2023) 奄美大島でのムラマツカノコの観察記録. *SATSUMA*, (171): 151.

図 1. 奥武島のムラマツカノコ (2023 年 11 月 25 日撮影) .

6 5 7 (Col.: Carabidae) オキナワハンミョウを沖縄県名護市奥武島で採集

小浜継雄 (沖縄県宜野湾市)

オキナワハンミョウ *Sophiodela okinawana* (Nakane, 1957) (オサムシ科, ハンミョウ亜科) は, 沖縄島, 石垣島, 与那国島から記録されている (石垣島と与那国島は沖縄島からの人為的移入) (松村, 2022 ; 鈴木, 2023) . 筆者は, 未記録と思われる名護市奥武島で本種を採集しているため報告する.

[採集標本データ]

1 ex. (図 1) , 沖縄県名護市奥武島, 25. XI. 2023, 筆者採集・同定, 琉球大学博物館 (風樹館) 保管. 砂利が敷かれた裸地で採集した.



[引用文献]

松村雅史 (2022) ハンミョウ科. 松村雅史 (編著) 沖縄甲虫図鑑: 106–107. 沖縄時事出版, 那覇.

鈴木 茂 (2023) 日本列島の甲虫全種目録 (2023) . <https://japanesebeetles.jimdofree.com/> (2023 年 12 月 5 日閲覧)

図 1. 名護市奥武島産オキナワハンミョウ.

6 5 8 (Dip.: Psychodidae) 佐賀県初記録のニッポンサシチョウバエ

古川晶啓 (佐賀大・農) ・三條場千寿 (東大院・農) ・日南 瑤・徳田 誠
(佐賀大・農)

サシチョウバエ亜科 Phlebotominae は、海外ではリーシュマニア症などの人獣共通感染症の媒介者として知られており、応用上重要な分類群である (三條場, 2022) . 国内では感染症の媒介は知られていないが、ニッポンサシチョウバエ *Sergentomyia squamirostris* (Newstead) が本州、四国、九州、沖縄に分布している (Sanjoba et al., 2011, 2017) . 本種はこれまで、九州では福岡県から報告されているが (Sanjoba et al., 2011) , 佐賀県からの記録はなかった. 筆者らは、佐賀県内各所にマレーズトラップを設置してタマバエ類の多様性調査を実施していたところ、佐賀市富士町の標高約 500m の地点に設置したトラップで本種の成虫 4 個体を捕獲した. 佐賀県初記録としてここに報告する. これらの標本は東京大学大学院農学生命科学研究科応用免疫学教室に保管されている.

本研究の一部は、JSPS 科研費 JP21H02208 の助成を受けて実施した. マレーズトラップは佐賀中部農林事務所の許可を得て県有林内に設置した.

[採集データ]

3♂ 1♀ (図 1) , 佐賀県佐賀市富士町大字上無津呂字大藤 (33°28'36.4"N 130°11'51.5"E) , 7. VII-8. VIII. 2023 採集, 古川晶啓・日南瑤・徳田誠採集 ; 三條場千寿同定.

上記 4 個体は林内に設置したマレーズトラップ (BT1001; MegaView Science Co., Ltd., 台中市) で採集された.

[引用文献]

Sanjoba C, Özbel Y, Asada M, Osada Y, Gantuya S, Matsumoto Y (2011) Recent collections of *Sergentomyia squamirostris* (Diptera: Psychodidae) in Japan, with descriptions and illustrations. *Medical Entomology and Zoology*, **62**: 71-77.

Sanjoba C, Omachi S, Sato K, Matsumoto Y

(2017) Additional distribution record of *Sergentomyia* (*Neophlebotomus*) *squamirostris* (Newstead) (Diptera: Psychodidae) from Tokyo, Japan. *Medical Entomology and Zoology*, **68**: 45-48.

三條場千寿 (2022) サシチョウバエ媒介感染症の概要と国内での状況. *モダンメディア*, **68**: 177-184.



図 1. ニッポンサシチョウバエ ♂個体.

6 5 9 (Lep.: Peleopodidae) オオエグリキバガ *Acria emarginella* の九州初記録について
荒島 弾 (九大院・生資環・昆虫)

オオエグリキバガ *Acria emarginella* (Donovan, 1806) はチョウ目エグリキバガ科に属する種で、国内では北海道・本州・四国で分布記録がある (坂巻, 2013) . このたび、筆者はこれまで記録のなかった九州にて得られた本種の標本を確認したため、九州初記録として報告する.

[標本データ]

1♂, [Oita], Sobosan, 8. VIII. 1956, H. Kuroko leg. 九州大学昆虫学研究室所蔵.

3♀ (図 1), Kumamoto, Naidajinkyō, 18. X. 1980, I. Kanazawa leg. 大阪市立自然史博物館所蔵.



末筆ながら、貴重な標本を借用させていただいた大阪市立自然史博物館の長田庸平博士、執筆にあたり御指導いただいた屋宜禎央博士に厚く御礼申し上げます.

図 1. オオエグリキバガ. スケールバー : 10 mm.

[引用文献]

坂巻祥孝 (2013) エグリキバガ科. 広渡俊哉・那須義次・坂巻祥孝・岸田泰則 (編). 日本産蛾類標準図鑑 III : 253. 学研教育出版, 東京.

6 6 0 (Lep.: Depressariidae) ヒラタマルハキバガ科 2 種の屋久島からの初記録について
荒島 弾 (九大院・生資環・昆虫)

ヒラタマルハキバガ科はチョウ目キバガ上科に属する分類群で、国内では約 60 種が記録されている (坂巻, 2013) . 屋久島ではこれまでに 4 種が記録されているが、筆者は新たにナガユミモンヒラタマルハキバガ *Semioscopis similis* Saito, 1989 とアセビヒラタマルハキバガ *Agonopterix asebiella* Arashima, Yagi & Hirowatari, 2023 の 2 種の標本を確認したため、初記録として報告する. 標本はいずれも故・藤沢勝利氏のコレクションで、飯田市美術博物館にて保管されている.

1. ナガユミモンヒラタマルハキバガ *Semioscopis similis* Saito, 1989 (図 1)

[標本データ] 1♀, Anbō, 1. IV. 1964, Y. Shibata leg.

北海道・本州で記録されている (坂巻, 2013) . 寄主植物は不明.



2. アセビヒラタマルハキバガ *Agonopterix asebiella* Arashima, Yagi & Hirowatari, 2023 (図 2)

[標本データ] 1♂, Shikanosawa, 29. VII. 1972, T. Watanabe leg.; 1♀, Shiratani, 25. VII. 1974, T. Watanabe leg.

図 1. ナガユミモンヒラタマルハキバガ. スケールバー : 10 mm.

本州・四国・九州本土で記録されている (Arashima et al., 2023) . 寄主植物はアセビ (ツツジ科) . なお, 九州以南では前翅の灰色部分が消失気味の個体が多く得られている.

末筆ながら, 貴重な標本を借用させていただいた飯田市美術博物館の四方圭一郎氏, 本稿の執筆に際しご助言をいただいた屋宜禎央博士 (九州大学) に御礼申し上げる.



図2. アセビヒラタマルハキバガ. A, ♂; B, ♀. スケールバー: 10 mm.

[引用文献]

Arashima H, Yagi S, Sakagami K, Hirowatari T (2023) A new Ericaceae feeding species of *Agonopterix* (Lepidoptera, Depressariidae) from Japan. *Journal of Asia-Pacific Biodiversity*, **16**: 130–133.

坂巻祥孝 (2013) ヒラタマルハキバガ科. 広渡俊哉・那須義次・坂巻祥孝・岸田泰則 (編). 日本産蛾類標準図鑑 III : 189–199. 学研教育出版, 東京.

6 6 1 (Lep.: Crambidae, Noctuidae) 福岡県・熊本県における河川河口域の注目すべき蛾類 福菌貴史 (九大・農)・神吉隆行 (九大院・比文)・佐々木公隆 (福岡県福岡市)

九州地方における河川河口域の蛾類相については, 知見がきわめて乏しい現状である. そこで, 著者らは福岡県玄界灘沿岸, 熊本県有明海沿岸の河川河口域においてライトトラップ調査を行い, 蛾類相を調査した. その結果得られた, 注目すべき蛾類 5 種の記録を報告する. なお今回, 水銀灯, HID ランプ, 紫外線 LED ランプを用いたライトトラップを用い, 調査を行った.

エンスイミズメイガ *Eristena argentata* Yoshiyasu, 1988

3 exs. (図 1), 7. VIII. 2021, 熊本県熊本市南区川口町 緑川河口, 福菌貴史採集・保管; 1 ex., 23. VIII. 2022, 熊本県宇土市新開町 浜戸川河口, 福菌貴史採集・佐々木公隆保管.

幼虫と蛹が汽水域の藻類中から見ついている (間野, 1990; 那須, 2013). 泉川での調査では発見できなかったが, 緑川・浜戸川河口の産地では個体数が多い. 河口域に発達したヨシ群落で得られた. 九州では



図 1. エンスイミズメイガ.

これまでに, 熊本県八代市の球磨川河口で記録されている (大塚, 1996) .

ギンモンアカヨトウ *Plusilla rosalia* Staudinger, 1892

1♀ (図2), 12. IX. 2023, 福岡県糸島市志摩小富士 泉川河口, 福菌貴史採集・保管; 1♂2♀, 12. IX. 2023, 福岡県糸島市志摩小富士 泉川河口, 佐々木公隆採集・保管; 1 ex., 15. IX. 2023, 福岡県糸島市志摩松隈, 神吉隆行撮影; 1 ex., 26. IX. 2023, 福岡県糸島市志摩松隈, 神吉隆行撮影.



図2. ギンモンアカヨトウ.

食草はヤナギタデが知られており, 低湿地や河川敷, 火山草原などで採集され, 比較的少ない (岸田, 2011) とされている. 周辺の耕作地周辺に多産するシロバナサクラタデなどのタデ類から発生していると思われる.

ヌマベウスキヨトウ *Chilodes pacifica* Sugi, 1982

2♀, 23. VIII. 2022, 熊本県宇土市新開町 浜戸川河口, 福菌貴史採集・保管; 1 ex., 20. VI. 2022, 福岡県糸島市志摩小富士 泉川河口, 神吉隆行撮影; 1♀ (図3), 23. V. 2023, 福岡県糸島市志摩小富士 泉川河口, 福菌貴史採集・保管; 2♂, 24. V. 2023, 福岡県糸島市志摩小富士 泉川河口, 福菌貴史採集・保管; 3♂1♀, 24. V. 2023, 福岡県糸島市志摩小富士 泉川河口, 佐々木公隆採集・保管; 1 ex., 11. VII. 2023, 福岡県糸島市志摩小富士 泉川河口, 神吉隆行撮影; 1♂, 12. IX. 2023, 福岡県糸島市志摩小富士 泉川河口, 佐々木公隆採集・保管.



図3. ヌマベウスキヨトウ.

河口域に発達したヨシ群落で得られた. 九州ではこれまでに大分県大分市と熊本県宇土市で記録されている (大塚, 2004) .

ハガタウスキヨトウ *Archanara resoluta* Hampson, 1910

1♀ (図4), 5. VI. 2023, 福岡県糸島市志摩小富士 泉川河口, 福菌貴史採集・保管; 5♂ (図5), 5. VI. 2023, 福岡県糸島市志摩小富士 泉川河口, 佐々木公隆採集・保管.

河口域に発達したヨシ原で得られた. 福岡県初記録であると思われる.



図4, 5. ハガタウスキヨトウ.

ノヒラキヨトウ *Mythimna obsoleta* (Hübner, [1803])

1♀, 20. IV. 2021, 熊本県熊本市南区富合町杉島 加勢川河川敷, 福菌貴史採集・保管; 3♂, 22. IV. 2021, 熊本県熊本市南区富合町杉島 加勢川河川敷, 福菌貴史採集・保管; 2♂, 22. IV. 2021, 熊本県熊本市南区富合町杉島 加勢川河川敷, 福菌貴史採集・保管; 3♂, 23. VIII. 2021, 熊本県熊本市南区川口町緑川河口, 福菌貴史採集・保管; 1 ex., 20. VI. 2022, 福岡県糸島市志摩小富士泉川河口, 神吉隆行撮影; 3♂1♀ (図 6), 23. V. 2023, 福岡県糸島市志摩小富士泉川河口, 福菌貴史採集・保管; 3♂, 12. IX. 2023, 福岡県糸島市志摩小富士 泉川河口, 佐々木公隆採集・保管.



図 6. ノヒラキヨトウ.

いずれの場所でもヨシの多い環境で得られた。九州ではこれまでに熊本県嘉島町で記録されている (山内, 1998)。

[引用文献]

- 大塚 勲 (1996) 九州未記録の蛾類 10. 蛾類通信, (189): 233.
 大塚 勲 (2004) 熊本県未記録の蛾類 (24). 熊本昆虫同好会報, (134): 1-5.
 岸田泰則 (2011) 日本産蛾類標準図鑑 II. 416 pp. 学研教育出版, 東京.
 那須義次・広渡俊哉・岸田泰則 (2013) 日本産蛾類標準図鑑 IV. 552 pp. 学研教育出版, 東京.
 間野隆裕 (1990) 愛知県海部郡弥富町の蛾. 佳香蝶, (160): 46-56.
 山内健生 (1998) ノヒラキヨトウ *Mythimna (Mythimna) obsoleta* (Hübner, 1803)の九州からの初記録. *Pulex*, (86): 469.

6 6 2 (Lep.: Geometridae) クシヒゲハイイロヒメシヤクの寄主植物および佐賀県における採集記録

矢野文士・奥園元晴・大塚陽香 (佐賀大院・農)・日南 瑤・徳田 誠 (佐賀大・農)

昆虫は海洋環境にほとんど適応していないとされるが (Asano et al., 2023), 近年の研究から, 有明海沿岸の干潟では, 満潮時に海水中に没するマツナ属 *Suaeda* (ヒユ科) など塩生植物上で様々な昆虫が確認されている (Kita et al., 2022). これらは昆虫の海水耐性を考える上で興味深い研究対象である.

クシヒゲハイイロヒメシヤク *Antilycauges pinguis* (Swinhoe) (シヤクガ科: ヒメシヤク亜科) (以下, 本種) は, 海外では中国東部から南部, 台湾, ベトナムに分布しており (Swinhoe, 1902; Inoue, 1977; Wang, 1997), 国内では三重県, 福岡県, 愛媛県, 対馬に加え, 喜界島, 徳之島, 与論島, 南浮原島, 久高島, 宮古島, 下地島, 石垣島, 北小島などの南西諸島で散発的に記録があるものの (金子, 2011; 木村, 2020a, b, 2022), 極めて稀な種とされており, 寄主植物などの生態については不明であった (金子, 2011). 近年になって, 海浜植物であるウコンイソマツ *Limonium wrightii* (Hance) Kuntze var. *wrightii* (イソマツ科) を食草とすることが報告された (新田, 2017).

筆者らは、佐賀県佐賀市南部の東よか干潟において、塩生植物であるシチメンソウ *Suaeda japonica* (ヒユ科) (図 1A) の立ち枯れの原因解明のため調査を行っている (手塚ら, 2020) . この調査の過程で、多数のシャクガ幼虫を確認し (図 1B) , 飼育により成虫を得たところ、本種であることが明らかになった (図 1C, D) . また、東よか干潟のシチメンソウ上でも本種の成虫を確認した. これらの結果から、本種は佐賀県にも生息しており、シチメンソウを寄主として利用していることが判明した. 本結果は、本種が沿岸部に生育する海浜植物や塩生植物を寄主としていることを強く示唆している. こうした特殊な寄主資源や環境への適応機構の解明は、昆虫の適応放散を考える上で興味深い課題であろう.

今回得られた標本は、佐賀大学農学部・システム生態学研究室に保管されている. 一部の標本の同定をして下さった金子岳夫氏 (豊橋市) , 調査に協力して下さった佐賀大学農学部・システム生態学研究室および浅海干潟環境学研究室の皆様には厚く御礼申し上げます. 本研究の一部は、佐賀市からの受託研究により実施された.

[採集および飼育データ]

いずれの記録も佐賀県佐賀市東与賀町大字下古賀東よか干潟 (佐賀県初記録) でシチメンソウ (新寄主記録) から採集したものである.

14. X. 2022, Ex ovum, 矢野・奥園・大塚・日南・徳田採集, 矢野・奥園飼育, 金子岳夫氏同定, 2♀ (24. XI. 2022 em.), 1♂ (25. XI. 2022 em.), 1♂ (26. XI. 2022 em.), 1♂1♀ (27. XI. 2022 em.); 25. IX. 2022, Ex larvae, 矢野・奥園・大塚・日南・徳田採集, 5♂2♀ (13. X. 2022 em.), 1♂1♀ (14. X. 2022 em.), 1♂1♀ (15. X. 2022 em.), 1♀ (16. X. 2022 em.); 5♂3♀, 9. X. 2023, 矢野採集.

[引用文献]

- 新田 智 (2017) クシヒゲハイイロヒメシャク南浮原島産飼育. ありんくりん通信, (19): 3–4.
- Asano K, Hashimoto K, Everroad RC (2023) Eco-evolutionary implications for a possible contribution of cuticle hardening system in insect evolution and terrestrialisation. *Physiological Entomology*, **48**: 55–60.
- Inoue H (1977) Catalogue of the Geometridae of Japan (Heterocera). *Bulletin of Faculty of Domestic Sciences, Otsuma Womans University*, **13**: 227–346.
- 金子岳夫 (2011) ヒメシャク亜科. 岸田泰則 (編) 日本産蛾類標準図鑑 I : 224–247. 学研教育出版, 東京.
- 木村正明 (2020a) 琉球産蛾類目録 2020. <https://gashowkimura.wixsite.com/website/moths-of-ryukyu> (2023年12月5日閲覧)
- 木村正明 (2020b) 喜界島で昼間に採集した蛾類の記録. *SATSUMA*, (166): 93–94.
- 木村正明 (2022) 奄美群島のクシヒゲハイイロヒメシャクの採集記録. *SATSUMA*, (170): 93.
- Kita A, Elsayed AK, Tokuda M (2022) Intertidal insects associated with halophytic *Suaeda* (Amaranthaceae) in Japan: a case study in Saga, northern Kyushu. *Biodiversity Data Journal*, **10**: e79184.
- Swinhoe C (1902) New and little known species of Drepanulidae, Epiblemidae, Microniidae and Geometridae in the National Collection. *Transactions of the Entomological Society of London*, **1902**: 585–677.
- 手塚 純美・郡山 益実・石橋 拓也・副島 和則・松田 浩輝・徳田 誠 (2020) 2018年に佐賀県佐

賀市の東与賀海岸シチメンソウヤードで発生したシチメンソウの立ち枯れ被害. 佐賀自然史研究, (24): 32–39.

Wang HY (1997) *Geometer moths of Taiwan and its allied species from the neighboring countries. Volume 1.* 405 pp. The Taiwan Museum, Taipei.

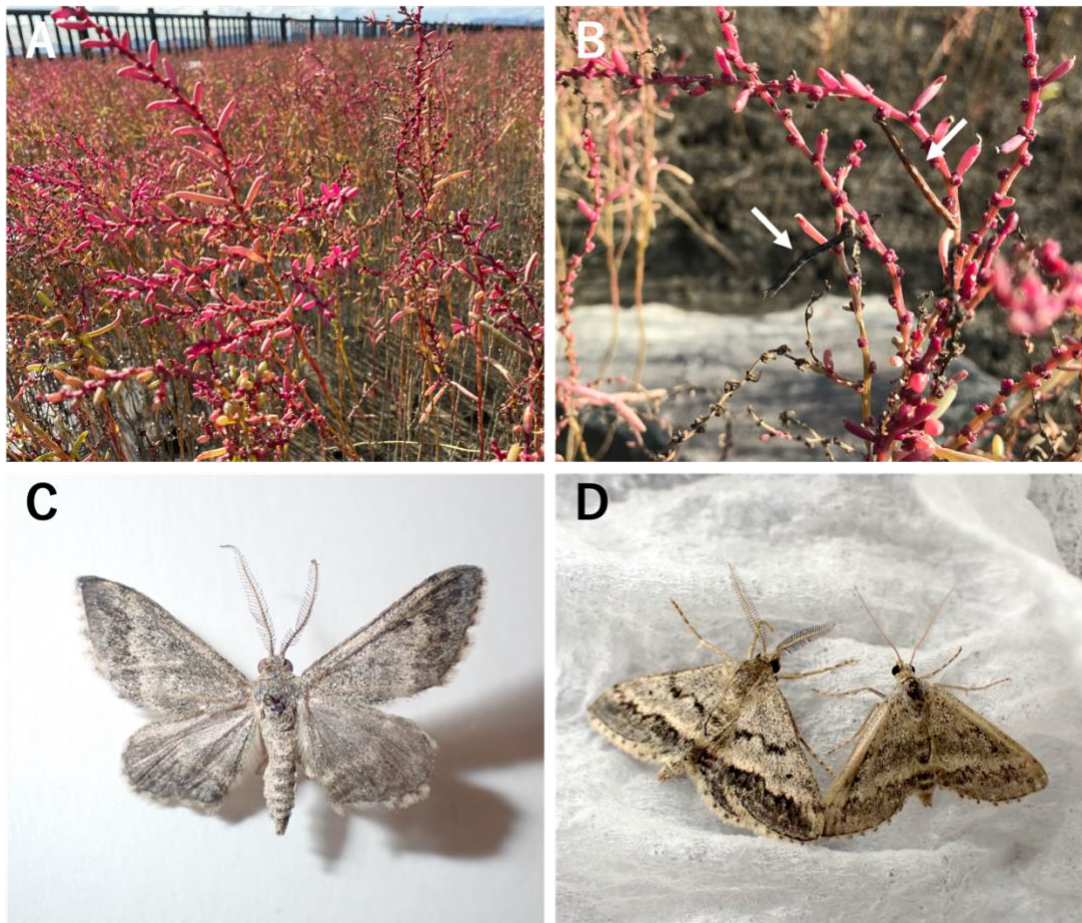


図 1. A, 東よか干潟に生育するシチメンソウ ; B, シチメンソウ上のクシヒゲハイロヒメシャク *Antilycauges pinguis* 幼虫 (矢印) ; C, *A. pinguis* 成虫♂ ; D, 飼育により得られた *A. pinguis* 成虫♂ (左) と♀ (右) .

6 6 3 (Lep.: Noctuidae) 長崎県におけるタイリクウスイロヨトウの記録

神吉隆行 (九大院・比文)

タイリクウスイロヨトウ *Hadula trifolii* (Hufnagel, 1766)は, これまで北海道から本州兵庫県以東の主に日本海側から記録されている (梅津, 2000 ; 岸田, 2011 ; 坪田, 2021) . 著者は, 2022 年 7 月に長崎県平戸市においてタイリクウスイロヨトウと思われる蛾を撮影したため, 標本を伴わないが本種の九州地方における初記録として報告する.

図 1 の個体は, 2022 年 7 月 16~17 日の夜間に実施したライトトラップに飛来したものである. 当個体は撮影後すぐに飛び立ち見失ったため, 標本は得られていない. 2023 年 7 月 28 日にも同所でのライトトラップ調査を行ったが, 本種は再度発見できなかった.

本種が発見された周辺の環境は, 海食崖に隣接し, 海岸林に囲まれた半自然草原であり, 年 1 回の早春の野焼きによって維持されている. この草原は, メガルカヤやヒメヨモギ, オトコヨモギ, サルトリイバラ, ワレモコウ, ノヒメユリ, カンコノキなどが生育する乾燥した草原で, ほぼ全域にわたって草丈が膝丈ほどであった.

[撮影記録]

1♀, 長崎県平戸市小田町, 17. VII. 2022,
著者撮影.

[引用文献]

梅津一史 (2000) 秋田県田沢湖町玉川戸
瀬の蛾類(1). 秋田県立博物館研究
報告, **25**: 9-36.

岸田泰則 (2011) 日本産蛾類標準図鑑 I.
412 pp. 学研教育出版, 東京.

坪田 瑛 (2021) 兵庫県で報告の少ない
ヤガ科について. きべりはむし,
44: 44-50.



図 1. 長崎県平戸市で撮影されたタイリクスイロヨトウ.

6 6 4 (Hym.: Formicidae) ジュズフシアリを熊本県で採集

久末 遊 (一財) 自然環境研究センター小笠原事務所)・野崎 翼 (九大院・生資環・
昆虫; 九大博)

ジュズフシアリ *Protanilla lini* Terayama, 2009 はムカシアリ亜科に属する体長約 3 mm の黄色から褐色のアリで, 数珠状の触角鞭節と細長い三角形状の大腮をもつ特徴的な種である (寺山ら, 2014). 本種は台湾の個体を基に記載され (Terayama, 2009), 日本では九州南部から八重山諸島にかけて分布する (JADG, 2003; 細石ら, 2007; 山根ら, 2010; 寺山ら, 2014; Griebenow, 2020). 本種は南西諸島では散発的ながらも多数の地点で得られている (Onoyama, 1976; 山根ら, 1999; 寺山ら, 2014) 一方, 九州本土においては宮崎県と鹿児島県の境に広がる霧島山系と鹿児島県の野間岳, 紫尾山に限られている (園部, 1972; 山根ら, 1994, 2010). 筆者の一人野崎は熊本県にて本種を採集したため, 九州本土における追加記録ならびに最も北の分布記録としてここに報告する. なお, 標本は九州大学農学部昆虫学教室に保管されている.

[採集データ]

1 worker (図 1-2), 熊本県八代市
泉町仁田尾 (Kumamoto Pref.,
Izumi-machi, Nitao) (32.544°N,
130.939°E; 830 m alt.), 23. V. 2023,
野崎採集.

照葉樹林内の舗装道路脇の石
の下から得られた.

末筆ながら, 本種に関する貴重
な情報をご教示いただいた山
根正気博士 (鹿児島県), 野崎の
採集に同行いただいた, 橋爪拓

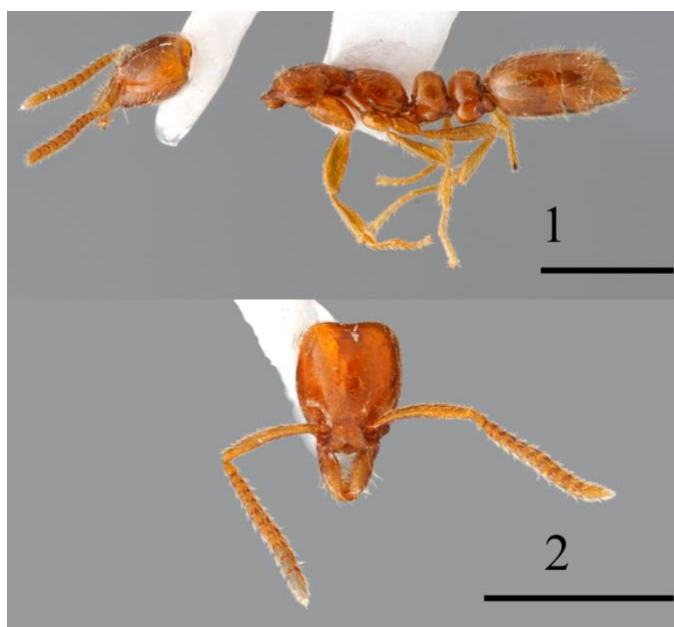


図 1-2. 熊本県産ジュズフシアリ. 1. 側面. 2. 頭部正面.
スケール: 1.0 mm.

斗氏（九州大学），佐藤勇哉氏（同）に厚く御礼申し上げる。
本調査はJSPS 科研費（No. JP23KJ1740）の研究助成を受けて行われた。

[引用文献]

- 細石真吾・吉村正志・久保木謙・緒方一夫（2007）屋久島のアリ類. 蟻, (30): 46–53.
- Griebenow Z (2020) Delimitation of tribes in the subfamily Leptanillinae (Hymenoptera: Formicidae), with a description of the male of *Protanilla lini* Terayama, 2009. *Myrmecological News*, **30**: 229–250.
- 日本産アリ類データベース作成グループ（JADG）（2003）日本産アリ類全種図鑑. 196 pp. 学習研究社, 東京.
- Onoyama K (1976) A preliminary study of the ant fauna of Okinawa-Ken, with taxonomic notes (Japan; Hymenoptera: Formicidae). *Ecological Studies of Nature Conservation of the Ryukyu Islands*, **2**: 121–141.
- 園部力雄（1972）霧島山地域のアリ相. JIBP 主調査地, 霧島山地域の動物相調査報, **11**: 176–182.
- Terayama M (2009) A synopsis of the family Formicidae of Taiwan (Insecta, Hymenoptera). *Bulletin of Kanto Gakuen University, Liberal Arts*, **17**: 81–266.
- 寺山 守・久保田敏・江口克之（2014）日本産アリ類図鑑, 278 pp. 朝倉書店, 東京.
- 山根正気・原田 豊・江口克之（2010）アリの生態と分類 —南九州のアリの自然史—. 200 pp. 南方新社, 鹿児島.
- 山根正気・幾留秀一・寺山 守（1999）南西諸島産有剣ハチ・アリ類検索図説. xii+831 pp. 24 pls. 北海道大学図書刊行会, 札幌.
- 山根正気・津田 清・原田 豊（1994）鹿児島県本土のアリ. 5 pls. + 185 pp. 西日本新聞社, 福岡.

6 6 5 (Hym.: Ichneumonidae) 標本に基づくニッポンキイロヒラタヒメバチの九州からの確実な記録

久末 遊（（一財）自然環境研究センター小笠原事務所）

ニッポンキイロヒラタヒメバチ *Xanthopimpla nipponensis* Watanabe & Matsumoto, 2021 はヒメバチ科キイロヒラタヒメバチ属の一種で, 本州（埼玉県, 東京都, 神奈川県, 愛知県, 京都府, 大阪府, 兵庫県, 奈良県, 鳥取県, 岡山県）, 四国（愛媛県, 高知県）, 九州（長崎県）に分布する（Watanabe & Matsumoto, 2021 ; 渡辺, 2022）. 本種の九州における分布について, 石井（1932）はヒメキイロフシヒメバチ *Xanthopimpla brachyparea* Krieger, 1914 として九州（長崎）を示し, 「日本昆虫図鑑」に掲載した. 石井（1932）の図に描かれた標本は残されていないようであるが, 特徴的な斑紋パターンから Watanabe & Matsumoto (2021) はこの種をニッポンキイロヒラタヒメバチと認め, 詳細な標本データは伴わないが九州に分布するものとして扱った. その後, 石井（1950）は石井（1932）のデータを踏襲する形で本種を掲載し, 江崎ら（1939）や古川ら（1965）は, 恐らく石井の記録を参照してそれぞれの図鑑で本種を記述した. しかしながら, 石井（1932）の証拠標本は所在が不明で記録の出典も書かれていないため, 詳細な産地情報が不明である. 筆者は大分県において本種を採集したため, 本種の証拠標本と具体的な産地情報を伴った九州からの確実な記録としてここに報告する. なお, 標本は九州大学農学部昆虫学教室に保管されている.

[採集データ]

1♀ (図 1-2), 大分県日田市前津江町大野釈迦岳 (Oita Pref., Hita-shi, Maetsue-machi-Ono, Mt. Shaka-dake) (33.181°N, 130.893°E; 920 m alt.), 28. VIII. 2022, 久末採集.

午後 2 時ごろ, 林道沿いの日陰となったススキ属草本のスウィーピングによって得られた.

末筆ながら, 本種に関する貴重な情報をご教示いただき, 原稿に貴重なコメントをいただいた渡辺恭平博士 (神奈川県生命の星・地球博物館), 貴重な文献をご恵与いただき, 原稿に貴重なコメントをいただき, 当日の採集に同行いただいた相馬純博士 (弘前大学白神自然環境研究センター) に厚く御礼申し上げます.

[引用文献]

江崎悌三・堀 浩・安松京三 (1939) 原色日本昆虫図説. 485 pp. 三省堂, 東京.
古川晴男・長谷川仁・奥谷禎一 (編) (1965) 原色昆虫百科図鑑. 799 pp. 集英社, 東京.

石井 悌 (1932) ひめきいろふしひめばち. 内田清之助 (代表)・一色周知・石井悌・新島善直・堀 浩・朴澤三二・岡本半次郎・小熊

捍・河田 薫・川村多實二・横山桐郎・高橋良一・上野益三・桑名伊之吉・桑山 覚・矢野宗幹・山田信一郎・丸毛信勝・小泉 丹・小島俊文・江崎悌三・木下周太・岸田久吉・湯浅啓温・素木得一・進士織平. 日本昆虫図鑑: 409. 北隆館, 東京.

石井 悌 (1950) ひめきいろふしひめばち. 石井 悌・内田清之助・江崎悌三・川村多實二・木下周太・桑山 覚・素木得一・湯浅啓温 (編) 日本昆虫図鑑, 改訂版: 1379. 北隆館, 東京.

渡辺恭平 (2022) 日本産キイロヒラタヒメバチ属 *Xanthopimpla* の同定資料. 神奈川虫報, (206): 17-22.

Watanabe K, Matsumoto R (2021) Revision of the genus *Xanthopimpla* Saussure, 1892 (Hymenoptera, Ichneumonidae, Pimplinae) from Japan. *Deutsche Entomologische Zeitschrift*, **68**(2): 269-297.



図 1-2. 大分県産ニッポンキイロヒラタヒメバチ. 1, 側面; 2, 背面.

666 (Lep.: Pyralidae) 熊本県においてロウバイから採集されたイナゴマメマダラメイガ
後藤聖士郎 (熊本農研セ・果樹)

イナゴマメマダラメイガ *Ectomyelois ceratoniae* (Zeller, 1839)は、暗灰色の前翅に灰白色でやや太く傾斜する内横線と灰白色の細い亜外縁線を持つ、メイガ科マダラメイガ亜科に属する開張約 20 mm の蛾類である (山中, 2013) . 地中海地方が原産とされる本種は、人為的に分布が拡大しており、国外では中国, 東南アジア, インド, スリランカ, オーストラリア, ヨーロッパ, ハワイ諸島, 北・南アメリカ, アフリカなど, 汎世界的に分布し, 日本においては本州 (京都府, 和歌山県) での土着が確認されている (山中, 2013 ; Ren & Yang, 2016) . 本種は果樹や貯蔵食物の害虫で, 幼虫の寄主植物として, 国外ではイチジク (クワ科) , イナゴマメ, アカシア, ハリエンジュ, タマリンド (以上マメ科) , ザクロ (ミソハギ科) , クルミ類 (クルミ科) が報告されている (山中, 2013) . 日本ではこれまでにトベラ (トベラ科) , ムクロジ (ムクロジ科) , モモ (バラ科) から本種が得られており, モモにおける被害は大きくないものの, その食性の広さからその他の果樹への被害が懸念されている (吉安・北辻, 2008 ; 山中, 2013) . 筆者は 2022 年 1 月及び 2023 年 3 月に, 熊本県熊本市にある公園に植樹されていたロウバイ *Chimonanthus praecox* (ロウバイ科) の偽果を採取し, ジッパー袋に入れて室内で保管していたところ, 本種が羽化してきたのでここに報告する. 標本は全て九州大学農学部昆虫学教室に収蔵予定である.

[採集データ]

1♂, 熊本県熊本市東区长嶺, 17. III. 2022 (ロウバイの偽果内から羽化) , 2. I. 2022, 後藤聖士郎, 後藤貴史採集 ; 1♂, 同所, 20. III. 2022 (ロウバイの偽果内から羽化) , 2. I. 2022, 同者採集 ; 1♀, 同所, 21. IV. 2023 (ロウバイの偽果内から羽化) , 1-31. III. 2023, 後藤聖士郎採集 (図 1) .

採取されたロウバイの偽果内部から, 幼虫, 糞および羽化殻が確認された. 本種は海外ではロウバイ属を利用することが知られていたが (Solis, 1999) , これまで日本における記録はなかった. ロウバイは庭木や公園樹として広く植樹されていること, 本種の幼虫は多くの植物種を利用することから, 今後日本各地においてロウバイを含む様々な植物種から本種が確認される可能性は十分にある.

末筆ながら, 本種に関する情報をお教えいただき, 併せて採集にご協力いただいた後藤貴史氏 (熊本県) に厚く御礼申し上げます.

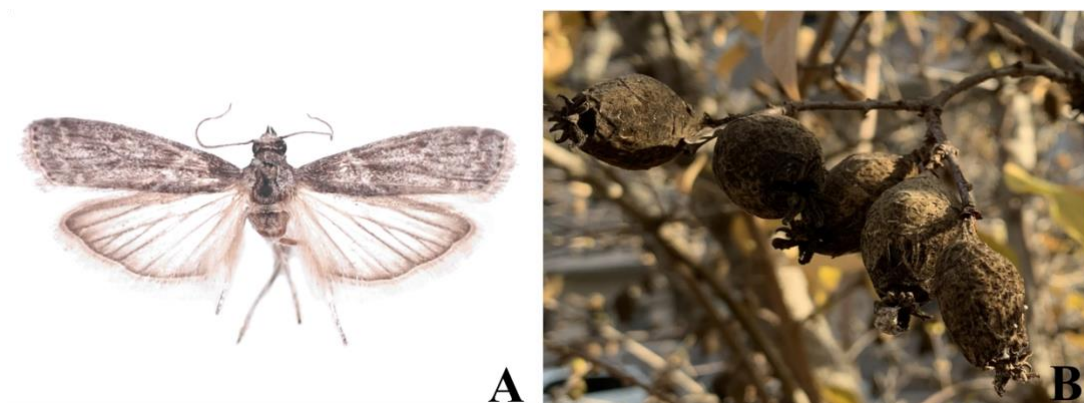


図 1. イナゴマメマダラメイガと寄主植物. A, ♀成虫 ; B, 採集地のロウバイ偽果.

[引用文献]

- Ren Y, Yang L (2016) *Ectomyelois* Heinrich, 1956 in China, with description of two new species and a key (Lepidoptera, Pyralidae, Phycitinae). *ZooKeys*, **559**: 125–137.
- Solis MA (1999) Key to selected Pyraloidea (Lepidoptera) larvae intercepted at U.S. Ports of entry: Revision of Pyraloidea in “Keys to some frequently intercepted lepidopterous larvae” by D. M. Weisman, 1986. *Proceedings of the Entomological Society of Washington*, **101**(3): 645–686.
- 山中 浩 (2013) マダラメイガ族. 那須義次・広渡俊哉・岸田泰則 (編), 日本産蛾類標準図鑑 IV : 335–368. 学研教育出版, 東京.
- 吉安 裕・北辻 類 (2008) イナゴマメマダラメイガの日本のモモ園からの発見. 京都府立大学学術報告. 生命環境学, **60**: 31–37.

6 6 7 (Pha.; Phallaceae) アカダマキヌガサタケ *Phallus rubrovolvatus* に誘引される昆虫
 陳 黄奇・橋爪拓斗・野崎 翼・紙谷聡志 (九大院・農・昆虫)・伊藤直哉 (九大院・比分)・細石真吾 (九大・熱研セ)

アカダマキヌガサタケ *Phallus rubrovolvatus* (M. Zang, D. G. Ji & X. X. Liu) Kreisel, 1996 は、スッポンタケ科に属するキノコ的一种である。スッポンタケ科は、グレバと呼ばれる孢子形成組織から、糞や腐肉のような特有の臭いを放出し、この特性を用いて昆虫を誘引し、粘液状の孢子が媒介者に付着し、それによって拡散されることや、媒介者に摂食された後に排泄された糞から拡散することが報告されている (Tuno, 1998; Hawkeswood et al., 2022)。福岡市におけるアカダマキヌガサタケおよび、グレバに集まる昆虫を調査したので、ここに報告する。

2023 年 6 月 27 日に福岡市西区柑子岳の竹林に自生するアカダマキヌガサタケに集まる昆虫を採集した。また、2023 年 6 月 27～29 日に、福岡市西区九州大学伊都キャンパス内に、アカダマキヌガサタケのグレバ部分のみをベイトとしたトラップを使い調査を行った。その結果、ケシキスイ 4 種、ハネカクシ 3 種、アリ 2 種を採取したためここで報告する。これらの標本は現在、九州大学農学部昆虫学教室にて保管されている。

[データ]

コウチュウ目 ケシキスイ科

1. ヨツボシケシキスイ *Glischrochilus (Librodor) japonicus* Motschulsky, 1857
1 ex., 福岡市西区九州大学 伊都キャンパス (Ito Campus, Kyushu Univ., Fukuoka), 27–29. VI. 2023, 紙谷採集・伊藤同定, ベイトトラップで採集された。
2. マルキマダラケシキスイ *Stelidota multiguttata* Reitter, 1877
9 exs., 福岡市西区九州大学伊都キャンパス (Ito Campus, Kyushu Univ., Fukuoka), 27–29. VI. 2023, 紙谷採集・伊藤同定, ベイトトラップで採集された。
3. アカマダラケシキスイ *Lasioidites picta* (MacLeay, 1825)
3 exs., 福岡市西区柑子岳 (Mt. Koshi, Fukuoka), 27. VI. 2023, 紙谷採集・伊藤同定, アカダマキヌガサタケから採集された。
4. モンチビヒラタケシキスイ *Epuraea (Haptoncus) ocularis* (Fairmaire, 1849)
24 exs., 福岡市西区柑子岳 (Mt. Koshi, Fukuoka), 27. VI. 2023, 紙谷採集・伊藤同定, アカ

ダマキヌガサタケから採集された。

ハネカクシ科

5. ゲンキヒメハネカクシ *Mocyta vivida* (Sharp, 1847)

2 exs., 福岡市西区柑子岳 (Mt. Koshi, Fukuoka), 27. VI. 2023, 紙谷採集・橋爪同定, アカダマキヌガサタケから採集された。

6. ヒメハネカクシ族の一種 *Athetini* gen. sp.

1 ex., 福岡市西区柑子岳 (Mt. Koshi, Itoshima Fukuoka), 27. VI. 2023, 紙谷採集・橋爪同定, アカダマキヌガサタケから採集された。

7. ヒメセスジハネカクシ属の一種 *Anotglus* sp.

1 ex., 福岡市西区柑子岳 (Mt. Koshi, Fukuoka), 27. VI. 2023, 紙谷採集・橋爪同定, アカダマキヌガサタケから採集された。

ハチ目 アリ科

8. オオズアリ *Pheidole nodus* Smith, 1874

10 exs., 福岡市西区柑子岳 (Mt. Koshi, Fukuoka), 27. VI. 2023, 紙谷採集・細石同定, アカダマキヌガサタケから採集された。

9. キイロシリアゲアリ *Crematogaster osakensis* Forel, 1900

6 exs., 福岡市西区柑子岳 (Mt. Koshi, Fukuoka), 27. VI. 2023, 紙谷採集・細石同定, アカダマキヌガサタケから採集された; 6 exs., 福岡市西区九州大学伊都キャンパス (Ito Campus, Kyushu Univ., Fukuoka), 27. VI. 2023, 紙谷採集・細石同定, ベイトトラップで採集された。

[引用文献]

Hawkeswood TJ, Sommung B, Sommung A, Kabir A (2022) First record of the stinkhorn fungus, *Phallus indusiatus* Vent. ex Pers. (1798) (Basidiomycota: Phallaceae) from Sisaket Province, Thailand with observations on *Oecophylla smaragdina* (Fabricius, 1775) (Hymenoptera: Formicidae) feeding on spores from the fungus. *Calodema*, **933**:1–4.

Tuno N (1998) Spore dispersal of *Dictyophora* fungi (Phallaceae) by flies. *Ecological Research*, **13**: 7–15.

668 (Hym.: Ichneumonoidea) クシヒゲハイイロヒメシヤクを寄主とする2種の寄生蜂
奥園元晴・矢野文士 (佐賀大院・農)・小西和彦 (愛媛大・農)・藤江隼平 (大阪市立自然史博物館)・大塚陽香 (佐賀大院・農)・日南 瑤・徳田 誠 (佐賀大・農)

クシヒゲハイイロヒメシヤク *Antilycauges pinguis* (Swinhoe, 1902) (シヤクガ科: ヒメシヤク亜科) (以下, ヒメシヤク) は, 日本国内では散発的な記録のみが知られる稀種であり (金子, 2011; 木村, 2020a, b, 2022), 筆者らの知る限り寄生者の記録は知られていない。筆者らは, 佐賀県佐賀市南部のシチメンソウ *Suaeda japonica* (ヒユ科) 群落にて, 本種の幼虫及び繭を採集し, 室内飼育を行った (矢野ら, 2023)。その結果, ヒメシヤク幼虫及び繭それぞれから1種ずつ寄生蜂が出現した。今回得られた標本は, 佐賀大学農学部・システム生態学研究室に保管されている。

[採集標本データ]

ギンケハラボソコマユバチ *Meteorus pulchricornis* (Wesmael, 1835)

1♀, 佐賀県佐賀市嘉瀬町, 23. X. 2022, ヒメシヤク幼虫から幼虫が脱出, 奥園元晴採集.

アオムシヒラタヒメバチ *Itopectis naranyae* (Ashmead, 1906)

1 ex., 佐賀県佐賀市東与賀町, 10. X. 2022, ヒメシヤク繭から成虫が脱出, 矢野文士採集.

上記のうち, ギンケハラボソコマユバチ (以下, コマユバチ) については有性生殖集団と無性生殖集団が存在することが知られている (Wachi et al., 2021). 今回得られたコマユバチ成虫に, 室内で採卵し飼育したヒメシヤク幼虫を与えたところ, 数日後にヒメシヤク幼虫からコマユバチ幼虫が脱出し, 営繭した. そして繭からは雌成虫が羽脱した. このことから, 得られた個体は無性生殖集団に由来するものと考えられる.

今回, ヒメシヤクを採集した地点のシチメンソウは, 満潮時に植物体全体が海水中に没するため, 植物体上のシヤクガ幼虫や繭も同様に水没する. 得られた上記2種の寄生蜂は, 多種の鱗翅目幼虫や蛹に寄生するジェネラリストであり (Maeto, 2018), 日常的に海水への水没を経験するような特殊な環境に生息する鱗翅目をも寄主としていた点は非常に興味深い. 研究に際し, 寄生蜂の同定に協力して下さった松尾和典博士に厚く御礼申し上げる. 本研究の一部は, 佐賀市からの受託研究により実施された.

[引用文献]

金子岳夫 (2011) ヒメシヤク亜科. 岸田泰則 (編). 日本産蛾類標準図鑑 I: 224–247. 学研教育出版, 東京.

木村正明 (2020a) 琉球産蛾類目録 2020. <https://gashowkimura.wixsite.com/website/moths-of-ryukyu> (2023年12月5日閲覧).

木村正明 (2020b) 喜界島で昼間に採集した蛾類の記録. *SATSUMA*, (166): 93–94.

木村正明 (2022) 奄美群島のクシヒゲハイイロヒメシヤクの採集記録. *SATSUMA*, (170): 93.

Maeto K (2018) Polyphagous koinobiosis: the biology and biocontrol potential of a braconid endoparasitoid of exophytic caterpillars. *Applied Entomology and Zoology*, **53**: 433–446.

Wachi N, Gau JJ, Fujie S, Fukano K, Maeto K (2021) Genomic population structure of sympatric sexual and asexual populations in a parasitic wasp, *Meteorus pulchricornis* (Hymenoptera: Braconidae), inferred from six hundred single-nucleotide polymorphism loci. *Molecular Ecology*, **30**: 1612–1623.

矢野文士・奥園元晴・大塚陽香・日南 瑤・徳田 誠 (2023) クシヒゲハイイロヒメシヤクの寄主植物および佐賀県における採集記録. *Pulex*, (102): 983–985.

6 6 9 (Lep.: Nymphalidae) キマダラモドキの八女市上陽町の記録

佐々木公隆 (福岡県福岡市) ・松永紀代子 (福岡県小郡市)

筆者の一人である松永は 2004 年 10 月 4 日に八女市上陽町下横山地区で開催された自然観察会に参加したおり, キマダラモドキを目撃・撮影しているのを報告する.

福岡県における記録は, 福岡県レッドデータブック (2014) の中で簡単に述べられているが出典が曖昧であった (福岡県環境部自然環境課, 2014). 実際にはこの記録は自然観察会の実行者の田村耕作氏によって自治体で報告されているが (上陽町, 2004), 自治体の報告書であるために引用されにくく, 今回新たに報告する.

[データ]

1♀ (図 1, 2), 福岡県八女市上陽町下横山, 2004 年 10 月 4 日, 松永紀代子目撃・撮影.



図 1, 2. キマダラモドキ.

[引用文献]

上陽町 (2004) 平成 16 年度下横山地区自然体験推進事業報告書.

福岡県環境部自然環境課 (2014) 福岡県レッドデータブック (2014) 福岡県の希少野生生物
爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類など. 276 pp. 8 pls.,
福岡.

670 (Lep.: Geometridae) 九州各地で 2020 年以降に採集・撮影したフユシヤクの仲間 佐々木公隆 (福岡県福岡市)・福菌貴史 (九大・農)

筆者らは九州各地で 2020 年以降に採集・撮影したフユシヤクの仲間についての記録を報告する. 中でもナカジマフユエダシヤク, トギレフユエダシヤクの 2 種は熊本県初記録を含む. 各種の分布記録は河村 (1984), 柳田 (1993), 柳田・佐々木 (1997) を参照した.

ナカジマフユエダシヤク *Larerannis nakajimai* Inoue, 1986 熊本県初記録

1♂, 福岡県那珂川市 九千部山, 9. XII. 2020, 佐々木公隆採集・保管; 1♂, 熊本県八代市 泉町仁田尾一二合, 3. XII. 2022, 福菌貴史採集・保管; 2♂ (1♂撮影, 図 1), 熊本県阿蘇郡 南阿蘇村河陰 地蔵峠, 10. XII. 2022, 佐々木公隆採集・保管; 1♂, 熊本県阿蘇郡南阿蘇村 河陰 地蔵峠, 10. XII. 2022, 福菌貴史採集・保管.

トギレフユエダシヤク *Protalcis concinnata* (Wileman, 1911) 熊本県初記録

1♂, 宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町鞍岡, 25. III. 2022, 福菌貴史採集・保管; 2♂, 熊本県八代市 泉町仁田尾一二合, 22-23. III. 2023, 佐々木公隆採集・保管; 1♂ (1♂撮影, 図 2), 宮崎県 西臼杵郡五ヶ瀬町鞍岡, 30. III. 2023, 佐々木公隆採集・保管.

シロフフユエダシヤク *Agriopis dira* (Butler, 1878)

1♂, 熊本県熊本市北区龍田, 21. I. 2021, 福菌貴史採集・保管; 4♂, 熊本県熊本市北区龍田, 13. II. 2021, 福菌貴史採集・保管; 2♂, 大分県玖珠町町田 (宝泉寺温泉上方), 1. III. 2023, 佐々木公隆採集・保管; 1♂, 大分県中津市深耶馬溪, 1. III. 2023, 佐々木公隆採集・保管; 1♂, 大分県玖珠町町田 (宝泉寺温泉上方), 11. III. 2023, 佐々木公隆採集・保管.

クロスジフユエダシヤク *Pachyerannis obliquaria* (Motschulsky, 1861)

1♂, 熊本県阿蘇郡南小国町万願寺 瀬の本高原, 6. XII. 2020, 福菌貴史採集・保管; 3♂,

大分県玖珠郡九重町湯坪 牧ノ戸峠, 20. XI. 2022, 福菌貴史採集・保管.

チャバネフユエダシヤク *Erannis golda* Djakonov, 1929

1♂, 福岡県那珂川市 九千部山, 9. XII. 2020, 佐々木公隆採集・保管; 1♂, 熊本県球磨郡五木村甲 大滝, 28. XI. 2021, 福菌貴史採集・保管; 1♂撮影, 熊本県高森町高森峠, 2. XII. 2021, 佐々木公隆撮影.

シモフリトゲエダシヤク *Phigalia sinuosaria* Leech, 1897

1♂, 熊本県熊本市北区室園町 立田山, 28. II. 2022, 福菌貴史採集・保管; 1♂, 福岡県八女市矢部村 釈迦岳 1000 m, 12. III. 2022, 佐々木公隆採集・保管; 1♂, 宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町鞍岡 向坂山, 12. III. 2022, 福菌貴史採集・保管; 3♂ (1♂撮影, 図3), 佐賀県佐賀市富士町大字関谷, 28. II. 2023, 佐々木公隆採集・保管; 1♂, 大分県玖珠町町田 (宝泉寺温泉上方), 1. III. 2023, 佐々木公隆採集・保管; 1♂, 大分県中津市深耶馬溪, 1. III. 2023, 佐々木公隆採集・保管; 1♂, 福岡県八女市矢部村 釈迦岳 1000 m, 4. III. 2023, 佐々木公隆採集・保管; 1♀ (1♀撮影, 図4), 熊本県阿蘇郡南小国町万願寺 瀬の本高原, 4. III. 2023, 福菌貴史採集・保管; 1♂, 大分県玖珠郡九重町牧ノ戸峠, 10. III. 2023, 佐々木公隆採集・保管.

シロトゲエダシヤク *Phigalia verecundaria* (Leech, 1897)

1♂, 熊本県菊池市旭志麓 鞍岳, 13. III. 2021, 福菌貴史採集・保管; 1♂ (1♂撮影, 図5), 大分県玖珠郡九重町牧ノ戸峠, 10. III. 2023, 佐々木公隆採集・保管; 12♂, 熊本県八代市泉村仁田尾一二合, 22-23. III. 2023, 佐々木公隆採集・保管; 1♂, 宮崎県東臼杵郡椎葉村下福良, 29. III. 2023, 佐々木公隆採集・保管.

フチグロトゲエダシヤク *Nyssiodes lefuarius* (Erschoff, 1872)

1♂1♀ペア撮影, 福岡県筑紫野市山家, 13. II. 2020, 佐々木公隆撮影; 1♂, 福岡県糸島市志摩松隈, 31. I. 2023, 福菌貴史採集・保管; 2♂, 福岡県糸島市志摩松隈, 4. II. 2023, 福菌貴史採集・保管; 1♂, 福岡県糸島市三雲, 5. II. 2023, 福菌貴史採集・保管; 1♀, 福岡県糸島市井田, 5. II. 2023, 福菌貴史採集・保管; 1♂, 福岡県糸島市三雲, 12. II. 2023, 福菌貴史採集・保管; 2♂, 福岡県糸島市三雲, 16. II. 2023, 福菌貴史採集・保管.

シロオビフユシヤク *Alsophila japonensis* (Warren, 1894)

1♂, 福岡県那珂川市 九千部山, 9. XII. 2020, 佐々木公隆採集・保管; 1♂, 福岡県八女市矢部村 釈迦岳, 12. XII. 2020, 佐々木公隆採集・保管; 1♂, 佐賀県神埼市脊振町腹巻 脊振山, 12. XII. 2022, 福菌貴史採集・保管; 1♂, 福岡県福岡市城南区油山中腹 200 m, 13. I. 2023, 佐々木公隆採集・保管; 1♂, 福岡県福岡市城南区油山中腹 200 m, 19. I. 2023, 佐々木公隆採集・保管.

サクフウフユシヤク *Alsophila yanagitai* Nakajima, 1995

3♂ (1♂1♀ペア撮影, 図6), 熊本県阿蘇郡高森町色見, 4. XII. 2021, 佐々木公隆採集・保管; 3♂, 熊本県阿蘇郡高森町高森峠, 4. XII. 2021, 佐々木公隆採集・保管; 3♂, 熊本県阿蘇郡高森町色見, 10. XII. 2022, 佐々木公隆採集・保管; 3♂, 熊本県阿蘇郡高森町高森, 10. XII. 2022, 福菌貴史採集・保管; 4♂, 熊本県阿蘇郡高森町高森, 7. XII. 2023, 福菌貴史採集・保管; 1♂, 熊本県阿蘇郡南阿蘇村久石 清水峠, 7. XII. 2023, 福菌貴史採集・保管.

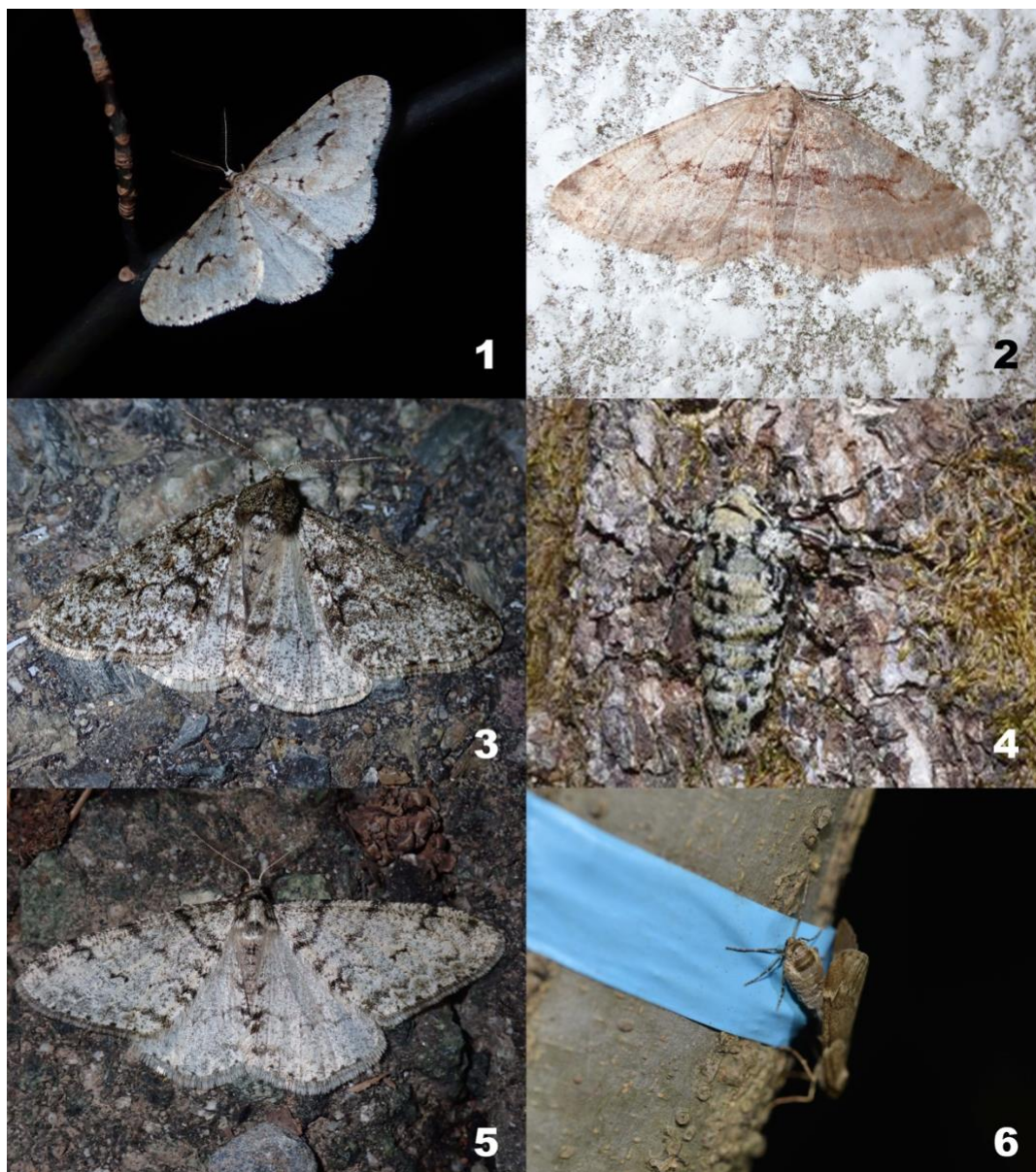


図 1-6. 九州各地のフコシヤク. 1, ナカジマフユエダシヤク ; 2, トギレフユエダシヤク ; 3, 4, シモフリトゲエダシヤク ; 5, シロトゲエダシヤク ; 6, サクフウエダシヤク.

クロテンフユシヤク *Inurois membranaria* (Christoph, 1881)

1♂, 熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陰 地蔵峠, 20. II. 2021, 福菌貴史採集・保管 ; 1♂, 福岡県那珂川市 九千部山, 21. II. 2021, 佐々木公隆採集・保管 ; 2♂, 熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陰 地蔵峠, 12. II. 2022, 福菌貴史採集・保管 ; 1♂撮影, 福岡県田川郡添田町 豊前坊, 28. II. 2022, 佐々木公隆撮影 ; 2♂, 1♂目撃, 佐賀県佐賀市富士町大字関谷, 28. II. 2023, 佐々木公隆採集・保管 ; 1♂, 福岡県八女市矢部村 釈迦岳 1000 m, 4. III. 2023, 佐々木公隆採集・保管 ; 1♂撮影, 大分県玖珠郡九重町牧ノ戸峠, 10. III. 2023, 佐々木公隆撮影 ; 1♂, 大分県玖珠町町田 (宝泉寺温泉上方), 11. III. 2023, 佐々木公隆採集・保管.

ウスバフユシヤク *Inurois fletcheri* Inoue, 1954

1♀, 宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町鞍岡 向坂山, 12. III. 2022, 福菌貴史採集・保管.

フタスジフユシヤク *Inurois asahinai* Inoue, 1974

1♂, 熊本県八代市泉町葉木, 3. XII. 2022, 福菌貴史採集・保管; 1♂, 熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陰 地蔵峠, 10. XII. 2022, 佐々木公隆採集・保管; 1♂, 熊本県阿蘇郡高森町高森 高森峠, 10. XII. 2022, 福菌貴史採集・保管.

ホソウスバフユシヤク *Inurois tenuis* Butler, 1879

1♂, 福岡県北九州市南区 平尾台, 12. III. 2020, 佐々木公隆採集・保管; 1♂ (1♂撮影, 図7), 福岡県八女市矢部村 釈迦岳, 4. III. 2023, 佐々木公隆採集・保管; 1♂, 熊本県熊本市北区龍田, 13. II. 2021, 福菌貴史採集・保管; 1♂, 熊本県熊本市北区龍田, 3. III. 2021, 福菌貴史採集・保管; 3♂, 熊本県合志市野々島 弁天山, 15. II. 2022, 福菌貴史採集・保管; 1♂, 大分県玖珠町町田 (宝泉寺温泉上方), 1. III. 2023, 佐々木公隆採集・保管; 1♂撮影, 大分県玖珠郡九重町牧ノ戸峠, 10. III. 2023, 佐々木公隆撮影; 1♂, 大分県玖珠町町田 (宝泉寺温泉上方), 11. III. 2023, 佐々木公隆採集・保管.

ウスモンフユシヤク *Inurois fumosa* (Inoue, 1944)

1♂, 佐賀県神埼市脊振町腹巻 脊振山, 12. XII. 2022, 福菌貴史採集・保管; 1♂, 福岡県福岡市城南区油山中腹 200 m, 13. I. 2023, 佐々木公隆採集・保管; 1♂, 福岡県福岡市城南区油山中腹 200 m, 19. I. 2023, 佐々木公隆採集・保管.

ナミスジフユナミシヤク *Operophtera brunnea* Nakajima, 1991

1♂撮影, 福岡県八女市矢部村 釈迦岳, 12. XII. 2020, 佐々木公隆撮影; 1♂撮影, 熊本県高森町高森峠, 4. XII. 2021, 佐々木公隆撮影; 1♂撮影, 熊本県高森町高森峠, 10. XII. 2022, 佐々木公隆撮影; 2♂, 熊本県高森町高森峠, 10. XII. 2022, 福菌貴史採集・保管.

イチモジフユナミシヤク *Operophtera rectipostmediana* (Inoue, 1942)

1♂, 福岡県八女市矢部村 釈迦岳, 12. XII. 2020, 佐々木公隆採集・保管; 1♂ (1♂撮影, 図8), 熊本県阿蘇郡南阿蘇村久石, 4. XII. 2021, 佐々木公隆採集・保管; 1♂, 熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陰 地蔵峠, 11. XII. 2022; 福菌貴史採集・保管.

サザナミフユナミシヤク *Operophtera japonaria* (Leech, 1891)

7♂ (1♂撮影, 図9), 熊本県阿蘇郡南阿蘇村久石, 4. XII. 2021, 佐々木公隆採集・保管; 5♂ (1♂撮影, 図10), 熊本県阿蘇郡南阿蘇村久石, 10. XII. 2022, 佐々木公隆採集・保管; 3♂, 熊本県阿蘇郡南阿蘇村久石, 10. XII. 2022, 福菌貴史採集・保管.

クロオビフユナミシヤク *Operophtera relegata* Prout, 1908

1♂, 熊本県熊本市北区龍田, 13. XII. 2020, 福菌貴史採集・保管; 1♂, 熊本県熊本市北区龍田, 28. XII. 2021, 福菌貴史採集・保管.

ヒメクロオビフユナミシヤク *Operophtera crispifascia* (Inoue, 1982)

1♂, 福岡県那珂川市 九千部山, 9. XII. 2020, 佐々木公隆採集・保管; 2♀, 佐賀県神埼市脊振町腹巻 脊振山, 12. XII. 2022, 福菌貴史採集・保管.

[引用文献]

河村 忠 (1984) 福岡県産蛾類目録. 339 pp. 北九州市立自然史博物館, 福岡.

柳田慶浩 (1993) 九州本土産フユシヤク類の記録. 蝶と蛾, **43**(4) : 249-254.

柳田慶浩・佐々木公隆 (1997) 九州本土産フユシヤク類の記録 (II) . 蝶と蛾, **48**(2) : 66-72.

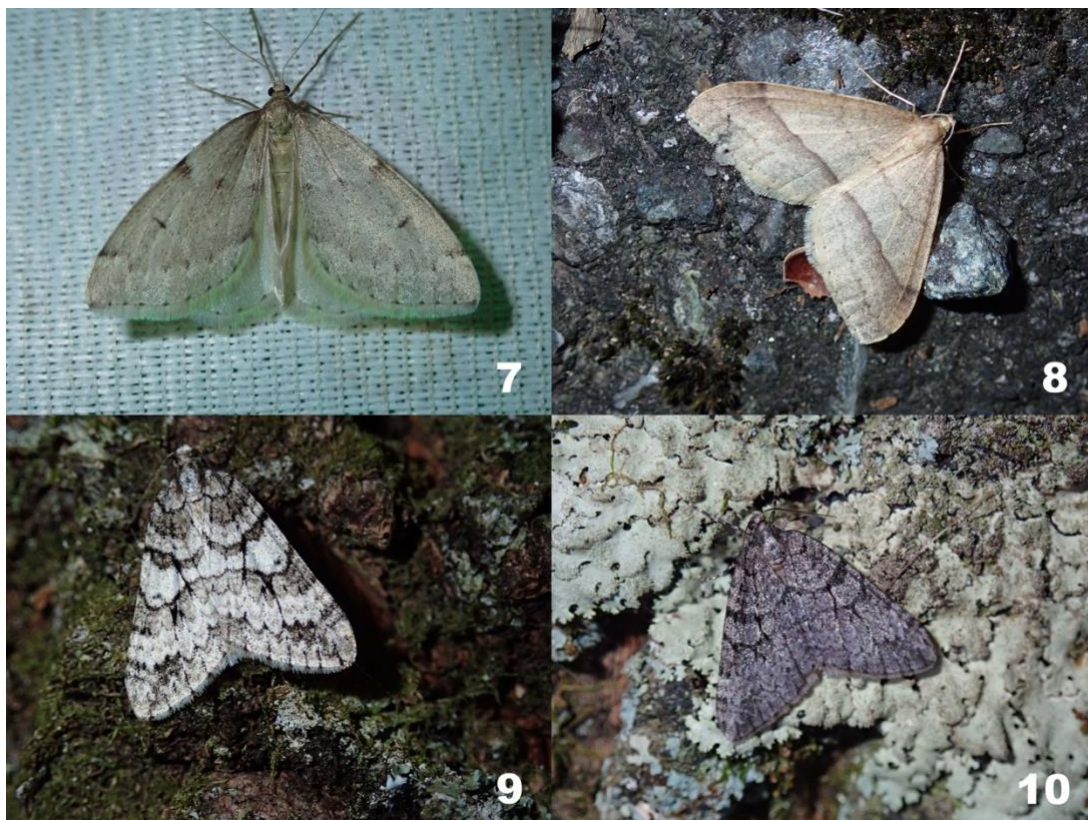


図7-10. 九州各地のフユシヤク. 7, ホソウスバフユシヤク ; 8, イチモジフユナミシヤク ; 9, 10, サザナミフユナミシヤク.

6 7 1 (Lep.: Crambidae, Noctuidae, Adelidae) 福岡市周辺の貴重な蛾類 3 種

佐々木公隆 (福岡県福岡市)

福岡市周辺でハマゴウノメイガ, オオチャバネヨトウ, クロハネシロヒゲナガを採集・撮影したので報告する.

1. ハマゴウノメイガ *Aglaops albipennis* (Inoue, 2000)

本種は, 井上 (2000) において本州 (三宅島阿古, 石川県小松市浜佐美, 小松市草野, 加賀市塩屋, 根上町吉原釜屋), 九州 (佐賀県浜玉町虹ノ松原, 熊本県天草島牛深市大島) で採集された標本をもとに記載された種である. 今回, 福岡市東区海の中道で採集したので報告する. 松林の中の日当たりの良い小道の脇の



図1. ハマゴウノメイガ.

ハマゴウ (マメ科) の葉に静止していたものを採集した。福岡県の記録はないと思われる。

[データ]

2♂ (図 1), 福岡県福岡市東区海の中道, 10. VII. 2022, 佐々木公隆採集・保管。

2. オオチャバネヨトウ *Nonagria puengeleri* (Schawerda, 1923)

本種の福岡県内の記録は、福岡市油山, 北九州市香月, 折尾, 奥畑, 河頭山, 田川郡英彦山, 大牟田市勝立などであるが (河村, 1984; 佐々木・小藤, 1998), 1960–1980 年までの記録がほとんどで, それ以降の記録は激減している。福岡県レッドデータブック 2014 においても絶滅危惧 IB 類とされている (福岡県環境部自然環境課, 2014)。本種はガマの茎に潜りその芯を食すことが知られているが, 湿地でのガマの減少により絶滅が危惧されている。



図 2. オオチャバネヨトウ。

[データ]

1♂ (図 2), 福岡県福岡市城南区油山 200 m, 7. VI. 2021, 佐々木公隆採集・保管。

3. クロハネシロヒゲナガ *Nemophora albiantennella* Issiki, 1930

福岡県からは、福岡県八女市星野村, 八女市女山などで記録されている (河村, 1984)。今回, 福岡県筑紫野市天拝山で採集されたので報告する。

[データ]

1♂ (図 3), 福岡県筑紫野市天拝山, 18. IV. 2023, 佐々木公隆採集・保管。



図 3. クロハネシロヒゲナガ。

[引用文献]

井上 寛 (2000) 日本産 *Herpetogramma* 属 (ツトガ科ノメイガ亜科) の 1 新種. 蝶と蛾, **51**(4): 316–318.

河村 忠 (1984) 福岡県産蛾類目録. 339 pp. 北九州市立自然史博物館, 福岡.

福岡県環境部自然環境課 (2014) 福岡県レッドデータブック 2014 福岡県の希少野生生物 — 爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等—. 276 pp. 福岡県環境部自然環境課, 福岡.

佐々木公隆・小藤佳紀 (1998) 福岡市油山の蛾類III. 福岡市油山自然観察の森自然環境調査報告, (3): 5–12.

6 7 2 (Lep.: Geometridae) ナガオエダシヤクを九州本土から記録

佐々木公隆 (福岡県福岡市)

ナガオエダシヤク *Chiasmia cinerearia* (Bremer & Grey, 1853)は、長崎県対馬で1♂だけが採集されている珍しい種である(岸田, 2011)。佐藤力夫氏からナガオエダシヤクについて尋ねたところ、これまでの記録は対馬の豊玉町仁位で1975年8月17日に採集された個体で、日本国内ではこの1頭のみであることや、国外では朝鮮半島と中国に分布する。

今回少し古い記録であるが、福岡市東区海の中道において採集したので報告する。九州本土では初記録である。砂地の松林の中でのライトトラップを実施したところウスキオエダシヤク *Oxymacaria normata* (Alphéraky, 1892)に混じって本種を採集できた。

[データ]

3♀, 福岡県福岡市東区海の中道, 29. VII. 2008, 佐々木公隆採集.

ナガオエダシヤクについて丁寧な説明をして頂き、発表を勧められた佐藤力夫氏に厚く御礼申し上げます。

[引用文献]

岸田泰則 (2011) 日本産蛾類標準図鑑 I. 352 pp. 学研教育出版, 東京.



図1. ナガオエダシヤク.

6 7 3 (Lep.: Sesiidae) 筑後市でアシナガモモブトスカシバを採集

佐々木公隆 (福岡県福岡市)・広田進一 (福岡県久留米市)

筆者の一人(広田)は、2021年7月13日に筑後市下北島で蛾の一種を発見した(図1)。佐々木が写真および標本を確認したところ、近年福岡県で記録のないアシナガモモブトスカシバ *Macroscelesia longipes* (Moore, 1877)だったのでここに記録する。

本種は、福岡県浮羽郡(現在の久留米市とうきは市の一部)で *Melittia* sp.として記録され(行徳, 1964), その後, Arita (1992)によって中国の上海で記載され

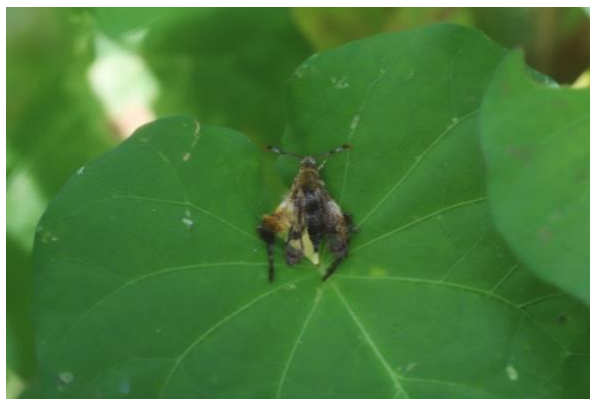


図1. アシナガモモブトスカシバ (2021年7月13日)。

た本種であることが明らかとなった。国内では本州、九州で発見されており、食餌植物はゴキヅル(ウリ科)である(Arita, 1992; 有田, 2013)。

翌2022年8月もアシナガモモブトスカシバが多数発生していると聞き、佐々木は同年9月9日に筑後市下北島に行き採集した。さらに9月12日には多数の採集個体と撮影・観察(交尾・静止・吸蜜)を行うことができた。アシナガモモブトスカシバは、農作地の昔ながらの用水路のゴキヅルで多数発生していた。午後2時から2時間ほどの観察で、高さ1mほどのところを飛翔する本種がアレチハナガサ(クマツヅラ科)の花で吸蜜するところを撮影した(図2)。ゴキヅルやクズの葉上で静止する本種も多数確認できた(図3)。

2023年7月上旬現地を訪れたところ、用水路の一部地域で水路改良が行われたためかアシナガモモトスカシバの姿はなかった。水路改良はこれからも進んでいくと予想されるので引き続き調査を行う必要がある。

[データ]

1♀撮影，福岡県筑後市下北島，13. VII. 2021，広田進一；6♂4♀，18. VII. 2021，広田進一採集，佐々木公隆保管；多数目撃，5. VIII. 2022，広田進一；7♂5♀，9. IX. 2022，佐々木公隆採集・保管；12♂6♀，12. IX. 2022，佐々木公隆採集・保管。

[引用文献]

Arita Y (1992) A new subspecies of *Macroscelesia longipes* (Moore) (Lepidoptera, Sesiidae) from Japan. *Tyo to Ga* 43(3): 221–224.

有田 豊 (2013) スカシバガ科. 広渡俊哉・那須義次・坂巻祥孝・岸田泰則 (編), 日本産蛾類標準図鑑 III: 332–341. 学研教育出版, 東京.

行徳直己 (1964) 浮羽郡産 Aegeriidae スカシバ科について. *KORASANA*, 4(2, 3):1–6.

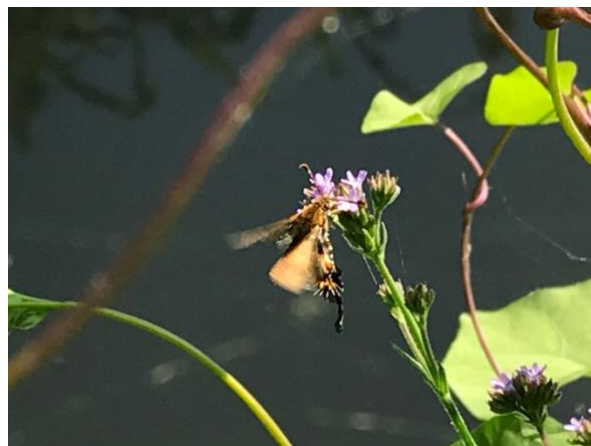


図2. 吸蜜するアシナガモモトスカシバ.



図3. 葉上で静止するアシナガモモトスカシバ.

674 (Lep.: Crambidae) 九州初記録のクロホシノメイガを福岡県で採集

松井悠樹 (九大院・農)・西谷光平 (九大院・生資環・昆虫)

クロホシノメイガ *Herpetogramma basalis* (Walker) はスリランカを基産地として記載された南方系のノメイガで，日本においては井上 (1984) によって沖縄本島から初めて記録され，これまでに沖縄本島のほか宮古島，来間島，石垣島から記録が知られる (山中・佐々木，2013；木村，2020)．九州以北からの記録はこれまでなかったが，筆者らは福岡県において本種を採集したため報告する。

[採集記録]

1♂，福岡県糸島市志登 (北緯 33.57°，東経 130.22°，標高 4 m)，2020年10月14日，西谷光平採集 (図1)．標本は九州大学農学部昆虫学教室に収蔵される。

上記の個体は夜間に集合住宅の外壁に静止していたもので，おそらく灯りに誘引されていた。集合住宅の周囲は屋敷林のある民家と神社が水田に混在する開けた環境だった。本種と同属のクロオビクロノメイガ *H. licarsisalis* (Walker)，ケナシクロオビクロノメイガ *H. phaeopteralis* (Guenée)，キモンウスグロノメイガ *H. magna* (Butler) は海などを越えて移動する移動性種と推定されており，移動先と考えられる地では専ら夏以降に成虫が得られて

いる（吉松，1991；楠，2001；宮原，2010）。今回本種が得られたのも10月という遅い時期であるため，本種もそのような移動性を持つ可能性がある。

[引用文献]

井上 寛（1984）日本から未記録のフタオガ1種とメイガ10種について．蛾類通信，(124): 377-382.

木村正明（2020）琉球産蛾類目録

2020. <https://gashowkimura.wixsite.com/moths-of-ryukyu>（2023年12月17日閲覧）

楠 祐一（2001）北海道中部における偶産蛾の記録：2000年．誘蛾燈，(163): 17-32.

宮原義雄（2010）延岡市の海岸調査で見つかった移動性メイガ．誘蛾燈，(199): 31-32.

山中 浩・佐々木明夫（2013）ノメイガ亜科．那須義次・広渡俊哉・岸田泰則（編）．日本産蛾類標準図鑑 IV：415-478．学研教育出版，東京．

吉松慎一（1991）東シナ海定点において1981年から1987年にかけて採集された鱗翅目昆虫．昆虫，59: 811-820.



図1. 福岡県産クロホシノメイガ雄成虫.

675 (Lep.: Adelidae) コンオビヒゲナガの屋久島における初記録

松井悠樹（九大院・農）

コンオビヒゲナガ *Nemophora ahenea* Stringer は金属光沢のある赤紫色の前翅に紺色の中帯を持つヒゲナガガで，大阪府岩湧山を基産地として記載された．本種はこれまでに本州，四国，九州の本土部および石垣島，西表島，台湾から記録があるが（広渡，2013），それらの間の島嶼からの記録を欠いていた．筆者らはこれまで記録がなかった屋久島において本種を見出したためここに記録する．

[採集記録]

2♂，鹿児島県熊毛郡屋久島町湯泊，2023年5月20日，石綿深志採集（図1）．標本は九州大学農学部昆虫学教室に収蔵される．

本種成虫は本土では夏季（7~8月）に出現する一方，八重山諸島では3月に出現することが知られている（広渡，2013）．今回，本土と八重山諸島の間位置する屋久島において，本種成虫の出現時期もそれらの中間である5月であることが明らかになった．この時期に着目して調査を行うことで，八重山諸島以北の南西諸島からも本種を発見できる可能性がある．



図1. 屋久島産コンオビヒゲナガ雄成虫.

末筆ながら、標本を提供していただいた石綿深志氏に厚くお礼申し上げます。

[引用文献]

広渡俊哉 (2013) ヒゲナガガ科. 広渡俊哉・那須義次・坂巻祥孝・岸田泰則 (編), 日本産蛾類標準図鑑 III : 102–110. 学研教育出版, 東京.

676 (Lep.: Ditrysia) 福岡県レッドデータブック 2014 で絶滅危惧・準絶滅危惧種に指定された蛾類の分布追加記録

朴 鎮亨 (九大院・生資環・昆虫) ・後藤聖士郎 (熊本農研セ・果樹)

著者らは福岡県レッドデータブック 2014 で絶滅危惧・準絶滅危惧種に指定されている地衣食性蛾類を福岡県内で採集したため、同県における分布追加記録としてここに記録する。種名の後に福岡県レッドデータブック 2014 で指定されたランクを明記した。標本はすべて九州大学昆虫学研究室に収蔵されている。

ミジンベニコヤガ *Ectoblemma rosella* Sugi, 1982 絶滅危惧II類 (VU)

1♂ (図 1), 福岡県福岡市西区九州大学早良演習場, Host : 粉状地衣類, Coll. on 17. V. 2022, Emrg. on 21. V. 2022, J.-H. Park leg.

分布 : 日本 (本州・四国・九州) ; 韓国, インド (岸田, 2011; Sohn, 2022)

ホスト : 不明

マツ樹皮および表面に発生していた粉状地衣類(レプラゴケおよびコガネゴケ)を採集したところ、成虫が羽化した。実際に摂食を確認することはできなかったが、採集・飼育時の状況からコガネゴケがホストである可能性が高い。

本種は全国的に希な種であるとされており、九州では北九州市香月、福岡市油山、福岡市南区および佐賀県多久市できろくされている(福岡県環境部自然環境課, 2014)。また、Web上の情報であり正式な記録はないが、対馬で成虫が得られている(境, 2021)。

ヒロズミノガ *Ceratosticha leptodeta* Meyrick, 1935 絶滅危惧II類 (VU)

1♀ (図 2, 3), 福岡県北九州市小倉南区平尾台, Coll. on 27. V. 2022, Emrg. on 24–30. VI. 2022, Host : *Paulia* sp., J.-H. Park leg. ; 1♀, same locality, Coll. on 27. V. 2022, Emrg. on 11–13. VI. 2022, Host : *Paulia* sp., J.-H. Park leg.

分布 : 日本 (本州・九州) ; 台湾, 韓国 (広渡ら, 2013; Roh & Byun, 2016)

ホスト : 岩石・樹幹表面の地衣類など

石灰岩の隙間・オーバーハング下部に付着していた幼虫を採集した。岩表面には黒色地衣類 (*Paulia* sp.) がまばらに生えていたため一緒に飼育したところ、しばらくして成虫が羽化した。

本種は 2000 年頃までは市街地の地衣類上で見られる普通種であったが、従来観察された場所のほとんどすべてで絶滅状態になったとされている。県内では環境的にはほとんど変化がみられないため、気候・気象的要因による減少が疑われている(福岡県環境部自然環境課, 2014)。

アキノヒメミノガ *Bacotia sakabei* Seino, 1981 準絶滅危惧 (NT)

1♂ (図 4), 福岡県福岡市西区桑原, 20. IX. 2018, K. Goto leg.

分布 : 日本 (本州・四国・九州・対馬) ; 韓国 (広渡ら, 2013; Roh & Byun, 2017)

ホスト：粉状・葉状地衣類

九州大学伊都キャンパス農学部棟の壁面に留まっていた個体を採集した。

県内では1980年代まで普通に生息していたが、以降急激に減少し、現在は山間部に小集団が点在して生息している。主要な減少原因は、酸性雨などの大気汚染による食餌の悪化によるものと推察されている（福岡県環境部自然環境課，2014）。

[引用文献]

岸田泰則（2011）日本産蛾類標準図鑑 II. 416 pp. 学研教育出版，東京。

広渡俊哉・那須義次・坂巻祥孝・岸田泰則（2013）日本産蛾類標準図鑑 III. 450 pp. 学研教育出版，東京。

福岡県環境部自然環境課（2014）福岡県レッドデータブック 2014 福岡県の希少野生生物 — 爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等—. 276 pp. 福岡県環境部自然環境課，福岡。

Roh SJ, Byun BK (2016) Discovery of *Ceratosticha leptodeta* Meyrick (Lepidoptera: Psychidae) from Korea. *Journal of Asia-Pacific Biodiversity*, **9**: 91–93.

Roh SJ, Byun BK (2017) First Discovery of the Lichen-Feeding Moth *Bacotia sakabei* (Lepidoptera: Psychidae) from Korea. *Animal Systematics, Evolution and Diversity*, **33**(1): 60–64.

境 良朗（2021）Web 図鑑 対馬の蛾類. ミジンベニコヤガ.

https://yohbo.main.jp/moth_zukan/syu/18_yaga/6_mizinbeni_koyaga.html（2023年12月26日閲覧）

Sohn JC (2022) New records of five species of Lepidoptera (Cosmopterigidae, Tortricidae, Pyralidae and Erebidae) from sand-dunes along the western coastline of Korea. *Journal of Species Research*, **11**(1): 61–66.



図 1–4. 1, ミジンベニコヤガ *Ectoblemma rosella* Sugi, 1982; 2, ヒロズミノガ *Ceratosticha leptodeta* Meyrick, 1935; 3, ヒロズミノガ, ケース; 4, アキノヒメミノガ *Bacotia sakabei* Seino, 1981. スケールバー：3 mm.

677 (Lep.: Incurvariidae) 奄美大島でリュウキュウホソバネマガリガ成虫を採集

朴 鎮亨 (九大院・生資環・昆虫)・松井悠樹 (九大院・農・昆虫)

リュウキュウホソバネマガリガ *Vespina meridiana* Hirowatari & Yagi, 2021 は、沖縄本島で得られた雌成虫 1 個体を基に記載され、幼虫と成虫の DNA 塩基配列情報から幼虫の寄主植物はヤマモモであると特定された (Hirowatari et al., 2021) . 本種は原記載以降記録がなく、奄美大島では幼虫のみが得られており、成虫は得られていなかったが、著者らが奄美大島で野外調査を行った過程で本種の♀成虫を得ることができたため、同島における分布追加記録として報告する.



図1. 奄美大島産リュウキュウホソバネマガリガ♀成虫. スケールバー: 3 mm.

[標本データ]

1♀, 鹿児島県宇検村湯湾赤土山展望台, 5. XI. 2023, Light trap, 松井悠樹・朴鎮亨採集; 1♀, 鹿児島県宇検村利勝林道, 8. XI. 2023, Light trap, 松井悠樹・朴鎮亨採集.

採集した標本は斑紋や交尾器を含む外部形態を比較することで同定を行った。標本は九州大学昆虫学研究室に収蔵されている。

[引用文献]

Hirowatari T, Yagi S, Ohshima I, Huang GH, Wang M (2021) Review of the genus *Vespina* (Lepidoptera, Incurvariidae) with two new species from China and Japan. *Zootaxa*, **4927**(2): 209–233.

678 (Lep.: Tortricidae) 長崎県および熊本県におけるホソハマキガ族3種の記録

鈴木信也 (九大院・生資環・昆虫)

ホソハマキガ族 Cochylini は、ハマキガ科ハマキガ亜科に所属する族で、世界で約 3,300 種が知られており (Brown et al., 2020) , 日本では 47 種が知られている (神保, 2021 ; Suzuki & Jinbo, 2022 ; Suzuki et al., 2022) . 那須ら (2023) によると、本族は九州本土では 18 種が知られている。その後、鈴木ら (2023) により九州本土 (福岡県北九州市平尾台) から 5 種が追加され、現在では 23 種が知られる。

筆者は長崎県と熊本県で灯火採集を行い、鈴木ら (2023) で九州本土から初めて記録された種のうち 3 種を採集したため、各県における初記録として報告する。なお、標本は全て九州大学農学部昆虫学教室に保管されている。

ツマオビシロホソハマキ *Phalonidia zygota* Razowski, 1964 (熊本県初記録) (図 1A)

1♂, 熊本県阿蘇市西湯浦, 30. VIII. 2023, 筆者採集.

本種は国内では北海道, 千島列島, 本州, 佐渡島, 対馬, 九州に, 国外では韓国, 中国, ロシア極東, シベリア, モンゴルに分布することが知られている (神保, 2013 ; 鈴木ら,

2023) . 鈴木ら (2023) によると, 本種は国内では草原や牧草地に多い. 本個体は牧草地付近での灯火採集で得られた. 幼虫の寄主植物は未知である.

コホソオビホソハマキ *Phalonidia lydiae* (Filipjev, 1940) (長崎県, 熊本県初記録) (図 1B) 8♂5♀, 長崎県東彼杵町太ノ浦郷, 30. VIII. 2023, 筆者採集; 2♂, 熊本県南阿蘇村河陽, 27. VIII. 2023, 筆者採集; 1♂, 31. VIII. 2023, 筆者採集; 1♀, 熊本県阿蘇市西湯浦, 30. VIII. 2023, 筆者採集.

本種は国内では本州, 九州に, 国外では韓国, 中国, ロシア極東に分布することが知られている (神保, 2013 ; 鈴木ら, 2023) . 鈴木ら (2023) によると, 本種は草原や湿原で採集されることが多い. 本報告で扱った個体のうち, 長崎県で得られたものは野焼き草原内の湿地付近での灯火採集で, 熊本県で得られたものは牧草地付近での灯火採集で多数の個体が得られた. 幼虫の寄主植物は未知である.

フトハスジホソハマキ *Cochylidia contumescens* (Meyrick, 1931) (長崎県, 熊本県初記録) (図 1C)

2♂, 長崎県東彼杵町太ノ浦郷, 30. VIII. 2023, 筆者採集; 1♀, 熊本県南阿蘇村河陽, 25. IX. 2021, 筆者採集.

本種は国内では北海道, 千島列島, 本州, 九州に, 国外では韓国, 中国東北部に分布することが知られている (神保, 2013 ; 鈴木ら, 2023) . 奥 (2003) によると, 本種は平地から山地まで分布し, 草原や湿原で採集されることが多い. 本報告の個体のうち, 長崎県で得られたものは野焼き草原内の湿地付近での灯火採集で, 熊本県で得られたものは牧草地付近での灯火採集で得られた. 本種の幼虫はフジバカマ *Eupatorium japonicum* Thunb. (キク科) の芽や茎に食入し, ゴールを形成することが知られている (村瀬, 2008 ; 鈴木ら, 2023) .



図 1. 長崎県および熊本県で得られたホソハマキガ族. A, ツマオビシロホソハマキ *Phalonidia zygota* Razowski, 1964; B, コホソオビホソハマキ *Phalonidia lydiae* (Filipjev, 1940); フトハスジホソハマキ *Cochylidia contumescens* (Meyrick, 1931).

[引用文献]

- Brown JW, Aarvik L, Heikkilä M, Brown R, Mutanen M (2020) A molecular phylogeny of Cochyliina, with confirmation of its relationship to Euliina (Lepidoptera: Tortricidae). *Systematic Entomology*, **45**: 160–174.
- 神保宇嗣 (2013) ハマキガ亜科. 那須義次・広渡俊哉・岸田泰則 (編) 日本産蛾類標準図鑑 IV : 156–195. 学研教育出版, 東京.
- 神保宇嗣 (2021) List-Mj 日本産蛾類総目録 [version 3]. <http://listmj.mothprog.com/> (2023年12月19日閲覧)
- 村瀬ますみ (2008) 飼育ノート 4. モグリチビガ・ムモンハモグリガ・ホソガ・ハマキガ・トリバガ科 20 種. 誘蛾燈, (194): 111–117.
- 那須義次・広渡俊哉・坂巻祥孝・岸田泰則 (2023) 日本の小蛾類. 191 pp. 株式会社 Gakken, 東京.
- 奥 俊夫 (2003) 岩手県の小蛾類. 157 pp. 岩手虫の会, 岩手.
- Suzuki S, Jinbo U (2022) The first occurrence of a cochyline moth, *Eupoecilia ingens* Sun & Li (Lepidoptera: Tortricidae: Tortricinae) in Japan. *Lepidoptera Science*, **73**(1): 13–17.
- Suzuki S, Jinbo U, Yagi S, Sato C, Hirowatari T (2022) A new species of the genus *Gynnidomorpha* (Lepidoptera: Tortricidae: Tortricinae) injurious to *Gentiana scabra* var. *buergeri* in Japan. *Applied Entomology and Zoology*, **58**(1): 105–112.
- 鈴木信也・屋宜禎央・外村俊輔・荒島 弾・朴 鎮亨・佐々木公隆・後藤聖士郎・広渡俊哉 (2023) 平尾台で得られた小蛾類. *Lepidoptera Science* **74**(4) (in press)

6 7 9 (Hemi.: Cicadellidae) 福岡県から害虫種の新ヒメヨコバイ亜科 2 種を初確認

上原友太郎 (九大院・生資環・昆虫) ・大原直通 (九大院・農・昆虫)

近年樹木への被害が確認されている害虫種であるサカキブチヒメヨコバイ *Sitcotettix cleverae* Ohara, Hayashi et Kamitani とモモヒメヨコバイ *Singapora shinshana* (Matsumura) を、これまで採集記録がなかった福岡県から確認したためここに報告する。検視標本は全て九州大学昆虫学教室 (ELKU) に保管されている。報告にあたり、標本を提供していただいた屋宜禎央博士 (九州大学大学院) と久末 遊博士 (自然環境研究センター) に御礼申し上げます。

サカキブチヒメヨコバイ *Sitcotettix cleverae* Ohara, Hayashi et Kamitani, 2019

オビヒメヨコバイ族の一種で、サカキ (ツバキ科) を寄主とするスペシャリストである。九州では佐賀県と宮崎県、鹿児島県から確認されていたが (紙谷ら, 2020 ; 米森ら, 2020) , 今回新たに福岡県から記録する。県北部のサカキ生産地からも本種による被害が確認されており (福岡県病害虫防除所, 2023) , 本種は既に県内に広く分布している可能性が高い。扁平な体型で、前翅に褐色の斑点模様をもつ。同属のヒサカキブチヒメヨコバイ *S. morishimai* Ohara, Hayashi et Kamitani との識別には♂♀生殖器の精査が必要である。

[分布] 本州 (静岡県以西) , 四国, 九州。

[標本データ] 1♀, 福岡県田川郡添田町英彦山 九州大学附属彦山生物学実験施設 (Mt. Hiko, Soeda, Tagawa, Fukuoka Pref., Kyushu) , 14. X. 2020, 大原直通採集 (N. Ohara leg.) .

モモヒメヨコバイ *Singapora shinshana* (Matsumura, 1932)

マダラヒメヨコバイ族の一種で、モモヤスモモ、ウメなどのバラ科果樹を加害する。国内

では沖縄県からのみ知られていたが（大原，2011），2019年に和歌山県からも確認されて以降，本土地域において急速に被害が拡大している注意すべき害虫種である．現在までに，関東以西の多くの都府県から病害虫発生予察特殊報が発表されており（三代，2023），今回福岡県から九州初記録として報告する．頭部正面にある黒点が特徴的な種で，生体時の体色は薄い緑色で，退色した標本では薄い黄色～黄白色となる．福岡市西区瑞梅寺ではウメに発生していた．

[分布] 本州，四国，九州，琉球（沖縄本島，石垣島）：台湾，韓国，中国．

[標本データ] 1♂，福岡県北九州市小倉南区北方（Kitagata, Kokura-Minami-ku, Kitakyushu, Fukuoka Pref., Kyushu），20. VIII. 2022，久末 遊採集（Y. Hisasue leg.）；1♂，福岡県春日市春日公園（Kasuga Park, Kasuga, Fukuoka），16. V. 2020，久末 遊採集（Y. Hisasue leg.）；1♂，福岡県福岡市東区筥崎宮（Hakozaki Shrine, Higashi-ku, Fukuoka），23. V. 2020，久末 遊採集（Y. Hisasue leg.）；1♂2♀，福岡県福岡市西区生の松原（Ikinomatsubara, Nishi-ku, Fukuoka, Fukuoka Pref., Kyushu），3. XII. 2023，屋宜禎央採集（S. Yagi leg.）；2♂38♀，福岡県糸島市瑞梅寺（Zuibaiji, Itoshima, Fukuoka Pref., Kyushu），10. VI. 2022，上原友太郎採集（Y. Uehara leg.）．

[引用文献]

福岡県病害虫防除所（2023）令和5年度病害虫発生予察特殊報第1号について．福岡県病害虫防除所ホームページ．<http://www.jpnp.ne.jp/fukuoka/jyouhou/R05/toku1.pdf>

紙谷聡志・大原直通・林 正美（2020）北部九州におけるサカキブチヒメヨコバイ．*Pulex*, (99): 815–816.

三代浩二（2023）モモヒメヨコバイの発生と現状．*植物防疫*, 77(9):50–52.

大原直通（2011）琉球列島におけるヒメヨコバイの分布．*Rostria*, (53): 7–15.

米森正梧・川口エリ子・河内眞子・片野田逸朗（2020）鹿児島県における新種ヨコバイによるサカキ白点被害の発生状況．*九州森林研究*, (73): 123–124.

680 (Hym.: Aculeata) 糸島半島で得られた有剣ハチ類の記録

三田敏治（九大院・農）

筆者は福岡県レッドデータブック（RDB）改訂に関わる調査の一環として，2021年に糸島半島でハチ類の生息調査を実施した．本稿では，その調査で得た標本の中から，福岡県のレッドリスト掲載種（福岡県環境部自然環境課，2014）を中心に報告する．採集者は特記ない限り筆者で，標本は九州大学農学部昆虫学教室に保管されている．リストでは，学名の後に該当する福岡県のカテゴリーを付した．報告に先立ち，希少なハチ類の分布についてご教示いただいた村尾竜起博士，現地調査で協力いただいた三田美佳博士，標本を提供いただいた阿部純大氏にお礼申し上げる．

クモバチ科 Pompilidae

キオビクモバチ *Batozonellus annulatus* (Fabricius, 1793)

[採集標本データ] 1♀，福岡市西区今津長浜，17. VII. 2021.

長浜では村尾（2015）で記録されている．ニッポンハナダカバチ *Bembix niponica* F. Smith, 1873（絶滅危惧 I A類）の集団営巣地手前の松林中を飛翔していた．他にも目視で複数個体を確認している．

スズメバチ科 Vespidae

オデコフタオビドロバチ *Anterhynchium gibbifrons* Yamane & Murota, 2015

[採集標本データ] 1♀, 糸島市志摩芥屋芥屋大門, 19. VIII. 2021.

キャンプ場近くの荒地沿いに生えるヤブガラシやノブドウではオオフタオビドロバチ *Anterhynchium flavomarginatum micado* (Kirsch, 1873) が多数見られるが, 稀に本種も混じるようである.

アナバチ科 Sphecidae

アメリカジガバチ *Sceliphron caementarium* (Drury, 1773)

[採集標本データ] 1♀, 福岡市西区今津長浜, 31. VII. 2021.

松林にほど近い作業小屋のノブドウの花を訪れていた. 本種よりヤマトルリジガバチ *Chalybion japonicum* (Gribodo, 1882) が圧倒的に多かった. その寄生者であるミドリセイボウ *Trichrysis lusca* (Fabricius, 1804), クロバネセイボウ *Chrysis angolensis* Radoszkowski, 1881 の姿は調査期間中目にする事がなかった.

ギングチバチ科 Chrabronidae

リュウキュウコオロギバチ *Liris deplanatus* (Kohl, 1884)

[採集標本データ] 1♀, 糸島市志摩芥屋芥屋大門, YPT, 14. V. 2021.

5月に玄武岩の岩場に仕掛けた黄色水盤で1個体だけ得られた. その後の調査では姿を見していない.

ハキリバチ科 Megachilidae

シロオビキホリハナバチ *Lithurgus collaris* Smith, 1873

[採集標本データ] 1♀, 福岡市西区今津長浜, 31. VII. 2021.

海岸に近い畑に植えられたシソの花に来ていた.

ネジロハキリバチ *Megachile disjunctiformis* Cockerell, 1911, 情報不足

[採集標本データ] 2♀, 福岡市西区今津長浜 19. VIII. 2021; 1♀, 糸島市浦志, 7. VIII. 2021.

本種は砂浜で多い印象だが, 調査では内陸でも見られた.

キヌゲハキリバチ *Megachile kobensis* Cockerell, 1918

[採集標本データ] 1♂, 福岡市西区今津長浜, 19. VIII. 2021.

海岸ではハマゴウなどの花で普通にみられる.

オキナワキバラハキリバチ *Megachile okinawana* Yasumatsu & Hirashima, 1964

[採集標本データ] 1♀1♂, 糸島市志摩芥屋芥屋大門, 28. VII. 2021

福岡県が北限となる南方系のハキリバチで, 村尾 (2015) が芥屋大門から報告している. 同じく南方系のハナバチであるトゲアシツヤハナバチ *Ceratina spinipes* Shiokawa, 2010 も芥屋大門に分布するとされるが, 2021年の調査では確認できなかった.

クズハキリバチ *Megachile pseudomonticola* Hedicke, 1925, 準絶滅危惧

[採集標本データ] 1♀, 糸島市志摩芥屋芥屋大門, 19. VIII. 2021.

ヤブガラシの花に集まるハチを観察していた折に通りがかった個体を得たもの.

スダキヌゲハキリバチ *Megachile pusilla* Pérez, 1884

[採集標本データ] 1♀1♂, 糸島市浦志, 7. VIII. 2021.

体長 7–9 mm と小型のハキリバチで, 地中海沿岸地域原産の外来種だと言われている (Nagase, 2016; Soltani et al., 2017). 日本では *Megachile sudai* Ikudome, 1999 の学名で知られていた (多田内・村尾, 2014). 浦志に限らず, 糸島半島では夏にシソ科の花でしばしばみられる.

ヒメハキリバチ *Megachile spissula* Cockerell, 1911

[採集標本データ] 2♀, 糸島市志摩小富士, 6. VIII. 2021.

民家の庭先にある, 日当たりのよい薪積みに営巣していた.

キバラハキリバチ *Megachile xanthothrix* Yasumatsu & Hirashima, 1964, 絶滅危惧 IB 類

[採集標本データ] 2♂, 糸島市志摩芥屋芥屋大門, 28. VII. 2021.

本種は芥屋大門でオキナワキバラハキリバチと同所的にみられることが報告されており (村尾, 2015), 2021 年の調査でも混生している様子が確認できた.

スミゾメハキリバチ *Megachile willughbiella sumizome* Hirashima & Maeta, 1974, 準絶滅危惧

[採集標本データ] 1♀, 糸島市瑞梅寺, 21. VI. 2021, J. Abe leg.

糸島半島の南に位置する山地で得られた. 今津長浜の松林でも報告がある (村尾, 2021).

[引用文献]

福岡県環境部自然環境課 (編) (2014) 福岡県レッドデータブック 2014 福岡県の希少野生生物 一爬虫類/両生類/魚類/昆虫類/貝類/甲殻類その他/クモ形類等一. 276 pp. 福岡県環境部自然環境課, 福岡.

村尾竜起 (2015) 福岡県北西部の海浜における有剣ハチ類の記録. つねきばち, (27): 33–50.

村尾竜起 (2021) 福岡県レッドデータブック及び環境省レッドリスト対象のミツバチ上科 3 種の追加記録. *Pulex*, (100): 866–868.

Nagase H (2016) Occurrence of *Megachile (Eutricharaea) concinna* Smith (Hymenoptera: Megachilidae) in Japan, with some comments on its distribution and morphology. *Japanese Journal of Systematic Entomology*, **22**(1): 95–97.

Soltani GG, Bénon D, Alvarez N, Praz CJ (2017) When different contact zones tell different stories: putative ring species in the *Megachile concinna* species complex (Hymenoptera: Megachilidae). *Biological Journal of the Linnean Society*, **121**(4): 815–832.

多田内修・村尾竜起 (2014) 日本産ハナバチ図鑑. 480 pp. 文一総合出版, 東京.

研究会事務所	〒819-0395 福岡市西区元岡 744 番地
	九州大学大学院農学研究院 昆虫学教室
会長	広渡俊哉
編集	紙谷聡志・屋宜禎央
	(092-802-4583, yagi.sadahisa@agr.kyushu-u.ac.jp)
2023 年 12 月 31 日 発行	編集兼発行者 九州・沖縄昆虫研究会